

Nichimo

PLASTIC COLOR MODEL

M.E.C. Deane

18-12-92 285 P. 1000

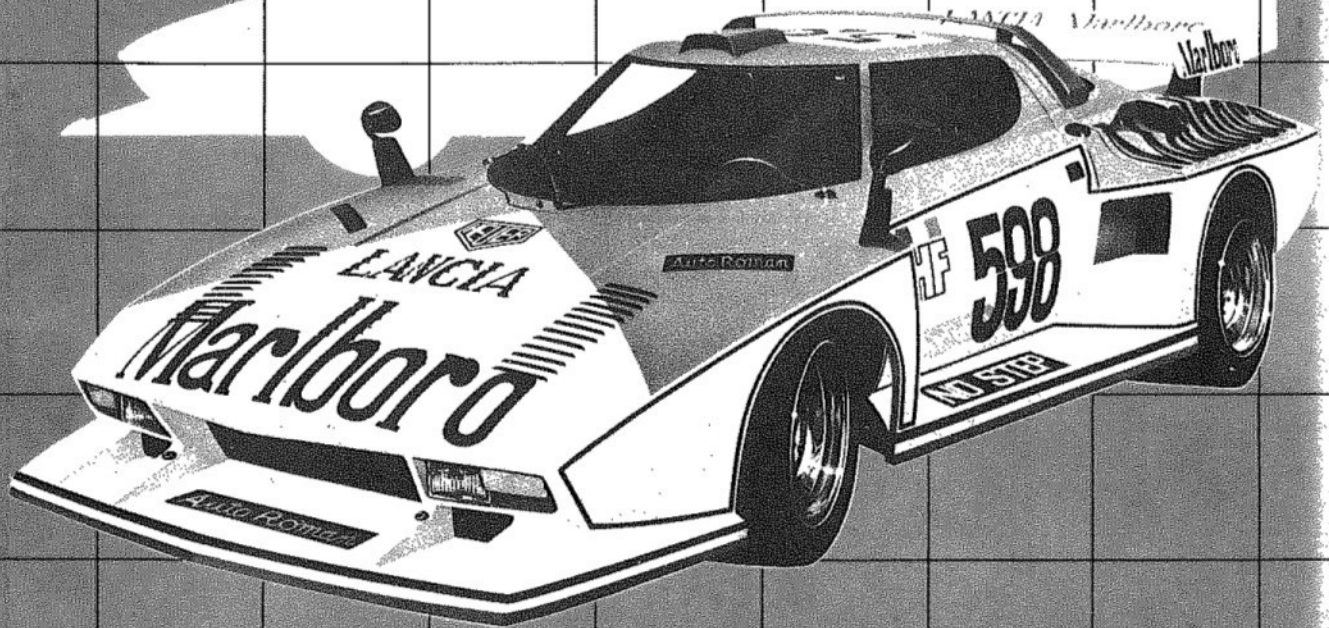
このキットには、ニチモメイクアップカラーズプレーが2本入っています。

SCALE 1:12

Car kit for Radio control



RACING LANCIA TURBO



MECHA.TYPE C

ハイスピード ラジオコントロールカー
レーシング ランチア ターボ

RC-1205

www.dirt-burners.com



日本模型株式会社

日本模型株式会社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
E-MAIL: info@nichimo.co.jp
www.nichimo.co.jp

《ランチャ ストラトス マールボロ》 要目及び性能データ

- モデル寸法
 - 全長 379mm
 - 全幅 171mm
 - 全高 105mm
 - ホイールベース 191mm
- 走行重量 1055g
- 動力 RS-380モーター

- 動力電源(別買)
 - 単2乾電池または各種ニッカド電池(単2型、6Vパック型)
- コントロールシステム(別買)
 - 2チャンネル・デジタルプロポーションナルラジオコントロール
 - スピードコントローラー・無段変速
 - ボディ・ポリカーボネート製

- シャーシ・ジュラルミン製フレーム
- サスペンション
 - (フロント・コムダンパー)
 - リヤ・コイルスプリング
- タイヤ・前後輪スポンジ製スリック
- テストデーター・最高速度
 - ニチモ6Vニッカドバッテリー使用
 - 30~31km/h

《ラジオコントロールの概要》

ラジオ・コントロールとは、手もとの送信機より発した電波を離れたところにある受信機で受けてサーボを運動させ、機械的な動作に変えさせる無線遠隔操縦を言います。

現在、模型の操縦に用いられているラジオ・コントロール装置は、主にデジタル・プロポーションナル方式と呼ばれるもので、この方式はその名の通り、サーボの比例的(プロポーションナル)な動作が特徴です。すなわち送信機のスティックを早く動かせばサーボも早く作動し、ゆっくり動か

せばサーボもゆっくり作動するわけです。また、このキットで使用する送受信機の2チャンネルとは、左右のスティックの動作で2つのサーボを独立して作動させるものを言います。

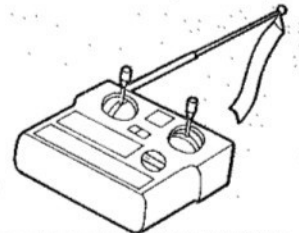
日本国内で認められているラジオ・コントロール用周波数は8種類で27MHz(メガヘルツ)帯①~⑥バンド、40MHz帯(A)、(B)です。8種類のバンドは混信(同周波数の電波が混じり合うこと)を事前に防ぐためにアンテナ先端に取り付けるリボンの色によって見分けられるようになっています。

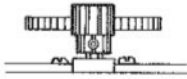
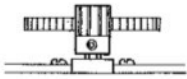

- ① バンド (26.995MHz) 茶リボン
- ② バンド (27.045MHz) 赤リボン
- ③ バンド (27.095MHz) 橙リボン
- ④ バンド (27.145MHz) 黄リボン
- ⑤ バンド (27.195MHz) 緑リボン
- ⑥ バンド (27.255MHz) 青リボン
- (A) バンド (40.665MHz) 桃リボン
- (B) バンド (40.695MHz) 白リボン



《作り始める前に》

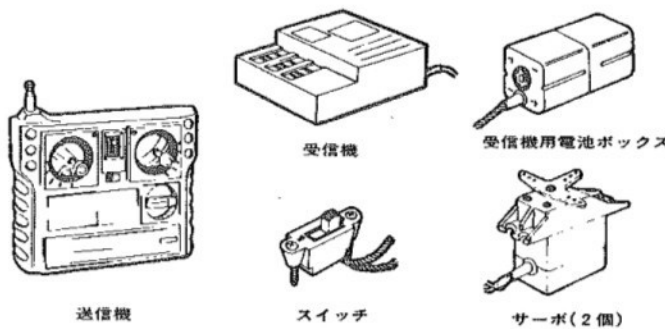
- 組み立てに必要な工具などを準備しておきましょう。
- パーツ(小部品)の袋詰めは1工程ごとに用意しました。組み立て部分ごとに袋からパーツを取り出して、器にあげて使用すると紛失を防ぐことができます。
- ギアの選択は下表にしたがって無理のないものを選び、運転技術の向上にしたがってチェンジしていくようにしましょう。技量に見合ったギアの選択やプレイする場所に応じたギアの選択はモデルカーを保護することにおいても非常に大切な事のひとつです。



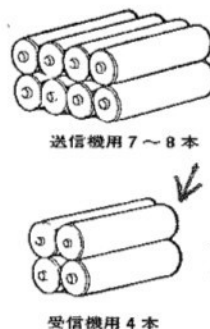
《ギアの組み合わせ》	バック型ニッカドバッテリー専用		単2乾電池・単2型ニッカドバッテリー用	
	○用途に応じたギアの選択は性能をフルに引き出すうえにも大切な工程のひとつです。 ビギナーの方には、まず③の中速テクニカル用をおすすめします。背のびは禁物です。技術の向上に応じてギアを変えていくのが上達の近道です。	(1) 高速平地用  平地で路面が良く、直線走行が十分に可能な場所でのスピード走行に適しています。オーバルコース(直線の長いダ円の形をしたコース)での走行をお楽しみください。 ギア比 1 : 4	(2) 高速テクニカル用  ヘヤピンやS字カーブなどコーナーの多いコースでのコントロールテクニクを競ってください。サーキットコースでのスピード競技用に最適です。 ギア比 1 : 5.2	(3) 中速テクニカル用  路面は自由で、急な坂や、し字、S字コースの他、自在な急発進を行うハードなスラローム競技に最適です。狭い場所や室内での操縦にも最適です。 ギア比 1 : 16

このキットに必要な送受信機セット及びバッテリー

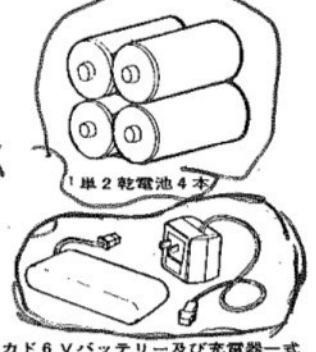
《送受信機セット》



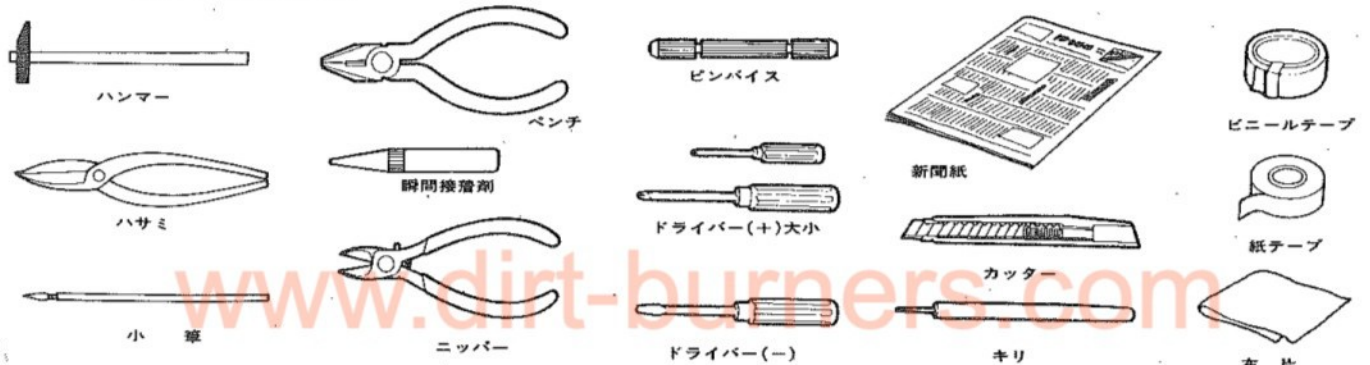
《単3乾電池》



《動力用バッテリー》

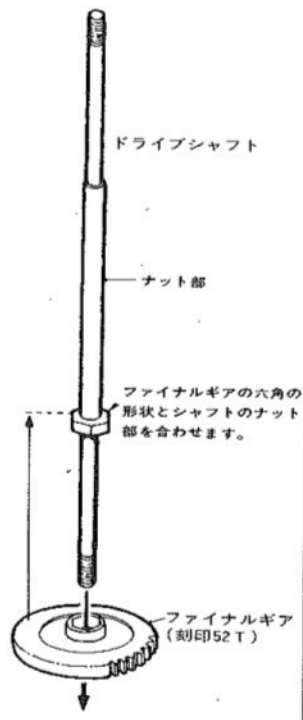


《組み立てに便利な工具類その他》



1 ドライブシャフトの組み立て

—ブリスターパックから—



《組み立て始める前に》

(品質の保持及び向上のため、説明不足及び組み立て変更は補足説明書により万全を期しますので、ご安心の上製作ください。)

- 説明書は、初めから終りまで目を通しておいください。全体の要領をつかんでおくと組み立てがスムーズに行えます。組み立て中は《組み立てのポイント》に注意してください。
- 小さなビスナット類の小部品は、組み立て順序に従って、組み立て易いように袋詰めされていますから、部品を失くさないように順を追って袋をあけるようにしてください。尚、ビスナット類は判別しにくいものですから原寸図を参考にしてください。
- このキットでは用途に応じた各種のチューブ入り接着剤・グリスがあります。下記のようなマークで図中に示してありますから使い分けてください。

- アドハチック……一般プラスチック専用 接着剤
- ABSニチボンド……ABS樹脂専用 接着剤 (ラベル無しチューブ)
- カーボスティック……ポリカーボネート 樹脂専用接着剤
- トランジェントロック……ビス等のゆるみ止め
- ニチモグリス……ギア、シャフト等の潤滑、焼きつき防止

*部品を取り出した完装は、幼児がかぶったりしないように破りすててください。

※ 注意
本キットの部品は、すべてに品質保証を付しています。品質保証の対象は、本キットの部品に限ります。本キットの部品は、すべてに品質保証を付しています。品質保証の対象は、本キットの部品に限ります。本キットの部品は、すべてに品質保証を付しています。品質保証の対象は、本キットの部品に限ります。

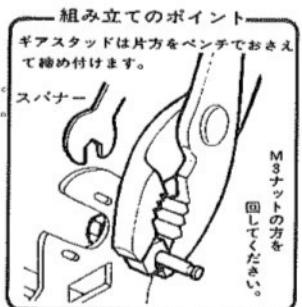
前ページのギア比1:4及び1:5.2を選択する場合 4 ページ②へ進みます。

前ページのギア比1:16を選択する場合

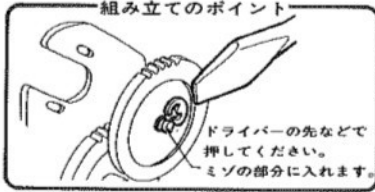
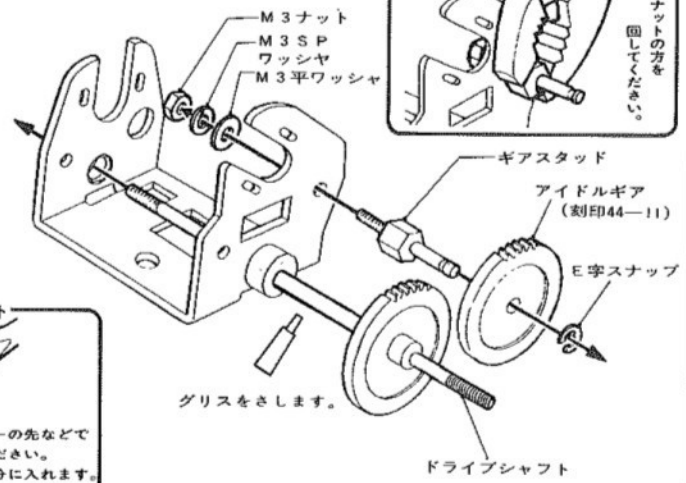
ニッカドバッテリー(ギア比1:16)の場合

2 ギアの取り付け

- 先にスタッドを取り付けてからドライブシャフトを差し込みます。次にアイドルギアを取り付けます。

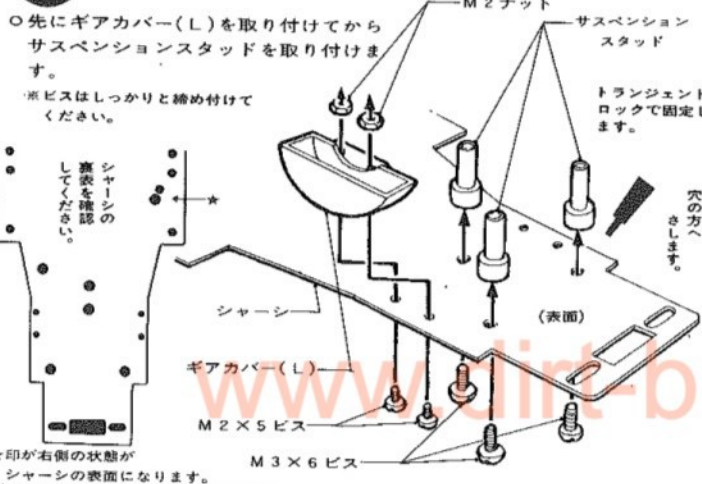


- 《使用する小部品原寸図》
- ブリスターパックから
- ギアスタッド (1コ)
- ブリスターパック金具小袋から
- E字スナップ (1コ)
- 袋詰1から
- M3ナット (1コ)
 - M3SPワッシャ (1コ)
 - M3平ワッシャ (1コ)



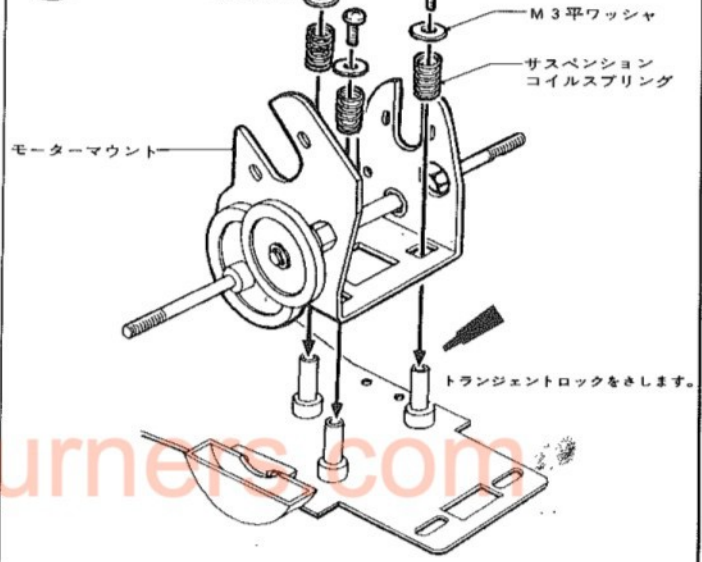
- 《使用する小部品原寸図》
- ブリスターパック金具小袋から
- サスペンションスタッド (3コ)
 - M2ナット (2コ)
- 袋詰1から
- M3×6ビス (3コ)
 - M2×5ビス (2コ)

3 ギアカバーサスペンションスタッドの取り付け



- 《使用する小部品原寸図》
- 袋詰1から
- M3×6ビス (3コ)
 - M3平ワッシャ (3コ)
- ブリスターパック金具小袋から
- サスペンションコイルスプリング (3コ)

4 モーターマウントの取り付け



5

モーターの取り付け

○この取り付け方は単2乾電池又はニッカドバッテリーのどちらでも使用できます。(10歯ピニオンギアは使用できません)

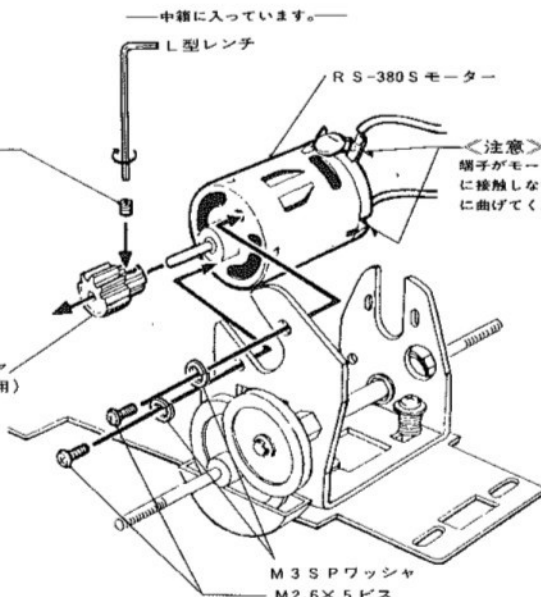
〈使用する小部品原寸図〉

— プリスターバックから —

- 13歯ピニオンギア (1コ)

— 袋詰1から —

- M3SPワッシャ (2コ)
- M2.6×5ビス (2コ)
- M3×3セットビス (1コ)



組み立てのポイント

ピニオンギアとアイドルギアの面を合わせて固定してください。

★スムーズなギアのかみ合わせが必要です。

ビスをゆるめて調整します。歯のかみ合いには約0.5ミリの遊びが必要です。

アイドルギアを回してみても軽くまわればOKです。

〈使用する小部品原寸図〉

— 袋詰1から —

- M4ナイロンナット (2コ)
- M4平ワッシャ (3コ)
- スペーサー〈黒〉 (1コ)
- 後軸カラー〈銀色アルミ〉 (2コ)

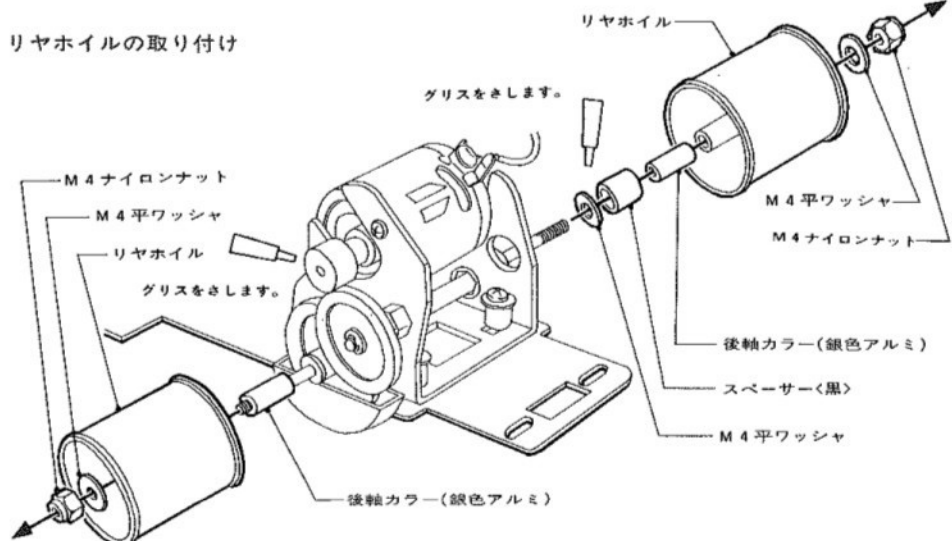
— プリスターバック小袋から —

〈ナイロンナットについて……〉

ナイロンナットはネジ穴にゆるみ止めの働きをする樹脂(ナイロン)が付いていますので少し締めると抵抗がかかりますが、さらに力を入れて締めつけてください。

6

リヤホイルの取り付け



組み立てのポイント

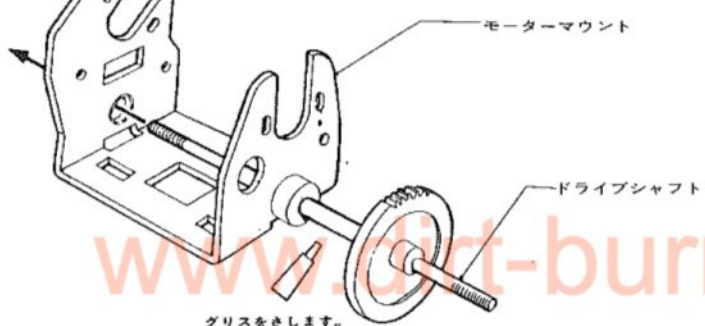
M4ナット回しを使ってホイルはしっかりと締めつけてください。

次は 6ページ⑦に進みます。

2

6Vニッカドバッテリー専用(高速ギア比)の組み立て

○モーターマウントにドライブシャフトを通します。



中速テクニカル用(1:16)

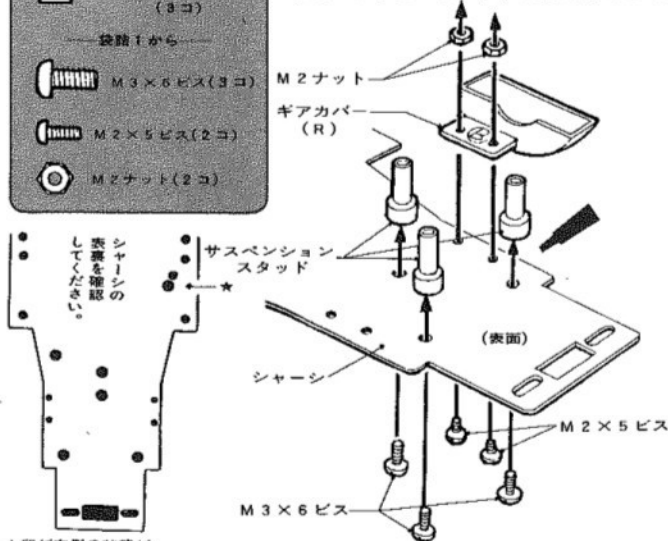
〔ニチモニッカドバッテリー12Vを御使用の場合〕

このキットでニチモニッカド12Vバッテリーを使用する場合には、必ず上記のギア比(1:16)で御使用ください。高速ギア比では車重及びバッテリー重量の増大のためモーター及びスピードコントローラーに負担がかかりますので使用できません。

- 〈使用する小部品原寸図〉
 プリスターバックギア小袋から
 サスペンション
 スタッド
 (3コ)
 袋詰1から
 M3×6ビス(3コ)
 M2×5ビス(2コ)
 M2ナット(2コ)

3 ギアカバー サスペンションスタッドの 取り付け

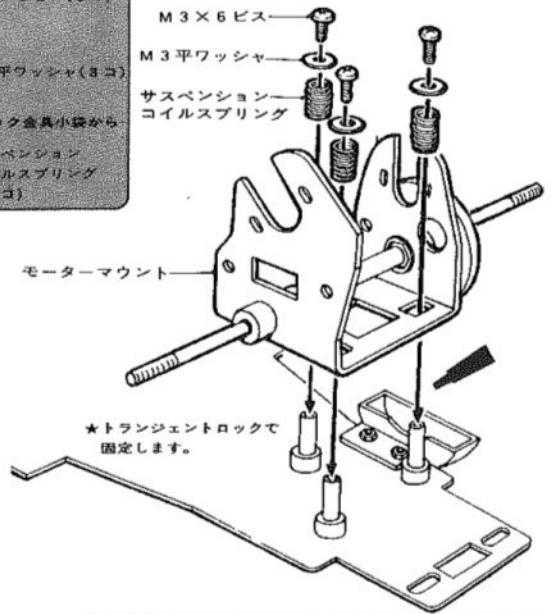
○先にギアカバー(R)を取り付けてから
サスペンションスタッドを取り付けます。



★印が右側の状態がシャーシの表面になります。 ★ビスはしっかりと締め付けてください。

- 〈使用する小部品原寸図〉
 袋詰1から
 M3×6ビス(3コ)
 M3平ワッシャ(8コ)
 プリスターバック金具小袋から
 サスペンション
 コイルスプリング
 (3コ)

4 モーターマウントの取り付け



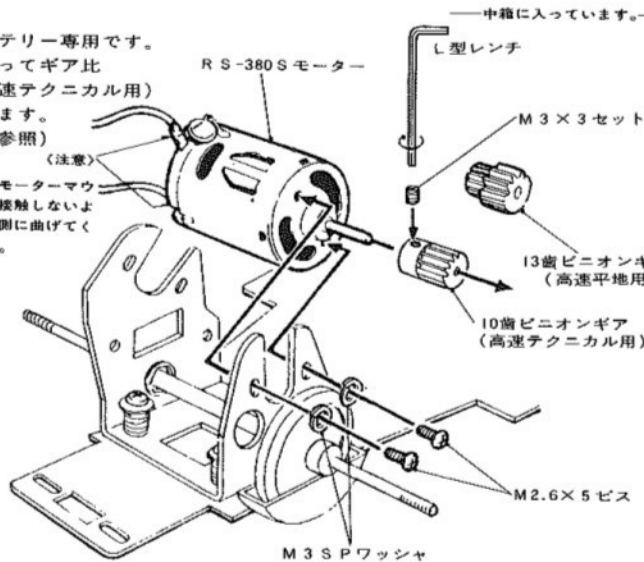
★トランジェントロックで固定します。

5 モーターの取り付け

○この取り付けはニッカドバッテリー専用です。
 ビニオンギアを選択することによってギア比
 1 : 4 (高速平地用)、1 : 5.2 (高速テクニカル用)
 のどちらかの状態に取り付けられます。
 (組み合わせについては2ページ参照)

- 〈使用する小部品原寸図〉
 プリスターバックから
 13歯ビニオンギア
 (1コ)
 10歯ビニオンギア
 (1コ)
 袋詰1から
 M3×3セットビス(1コ)
 M2.6×5ビス(2コ)
 M3SPワッシャ(2コ)

(注意)
 端子がモーターマウ
 ントに接触しないよ
 うに外側に曲げてく
 ださい。



組み立てのポイント

ビニオンギアと
 ファイナルギアの
 面と面のように
 合せてください。
 かみ合いには充分
 な注意が必要です。

★スムーズなギアのかみ合わせが
 必要です。
 ビスをゆるめて調整します。

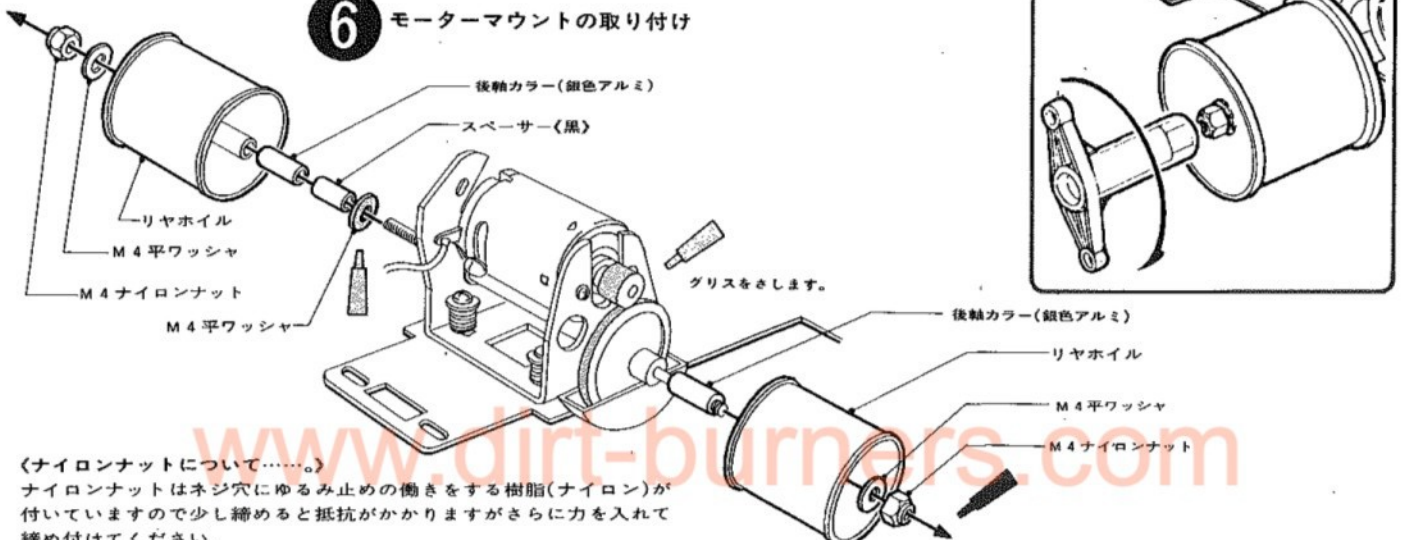
歯のかみ合いには
 約0.5ミリの遊び
 が必要です。

アイドルギアを
 回してみても軽く
 まわればOKです。

〈使用する小部品原寸図〉

- 袋詰1から
 M4ナイロン
 ナット
 (2コ)
 M4平ワッシャ
 (3コ)
 プリスターバック小袋から
 スペーサー<黒>
 (1コ)
 後軸カラー<銀色アルミ>
 (2コ)

6 モーターマウントの取り付け



組み立てのポイント

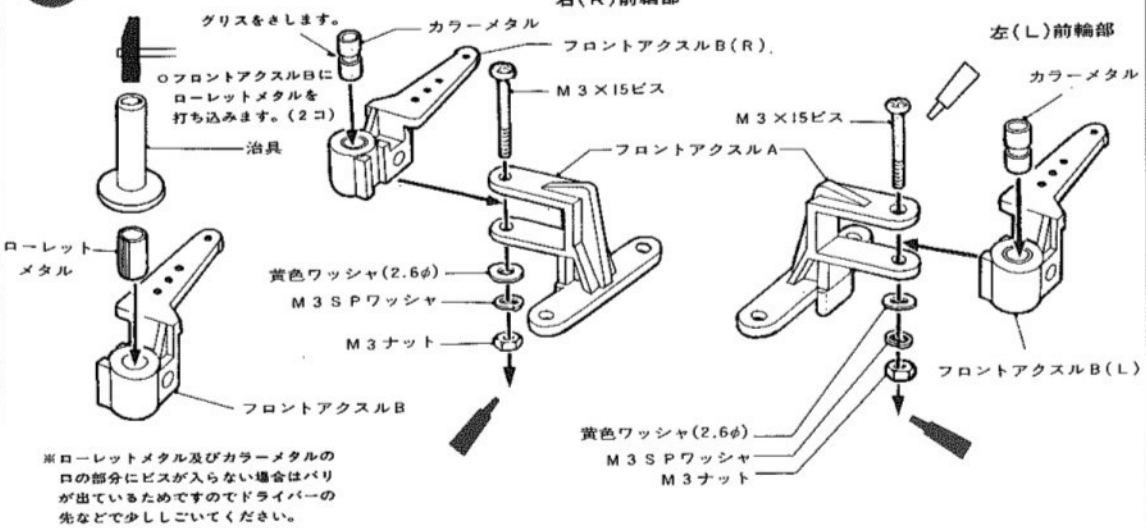
シャフトのネジ部にトランジェント
 ロックを塗ってM4ナット回しを使
 いホイールをしっかり締め付けます。

〈ナイロンナットについて……〉
 ナイロンナットはネジ穴にゆるみ止めの働きをする樹脂(ナイロン)が
 付いていますので少し締めると抵抗がかかりますがさらに力を入れて
 締め付けてください。

《注意》フロントアクスルAとフロントアクスルBはスムーズに動くようにします。しめすぎた場合は調整します。

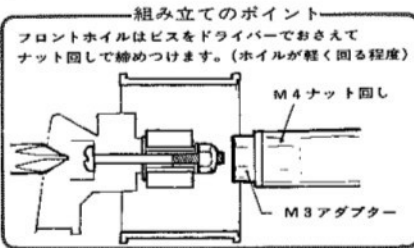
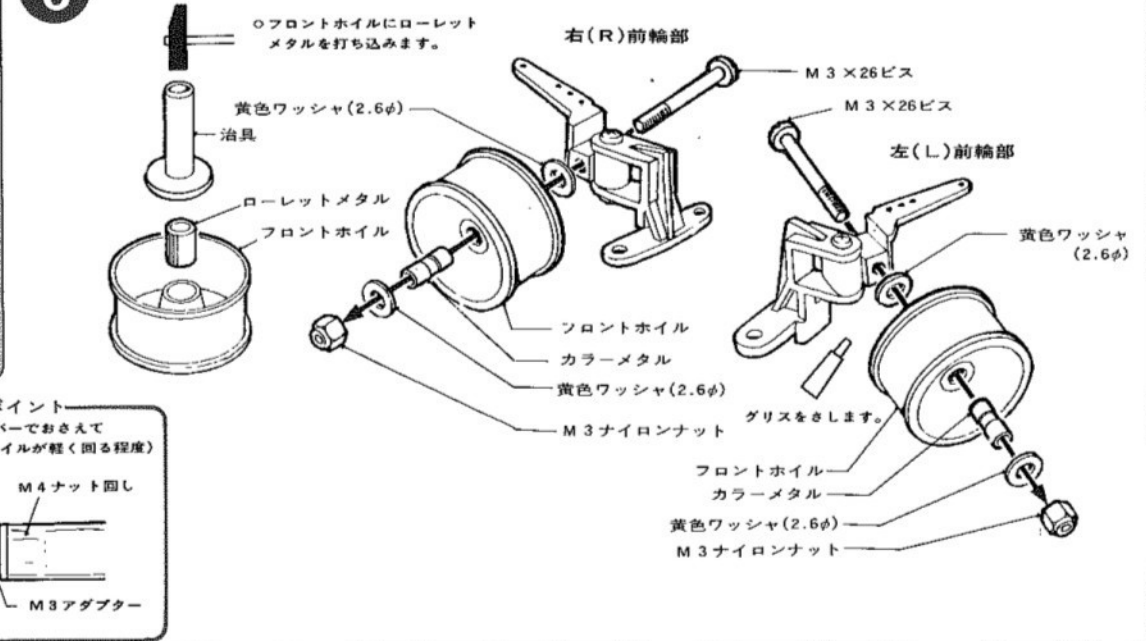
7 フロントアクスルの組み立て

- 《使用する小部品原寸図》
 プリスターバック金具小袋から
- ローレットメタル (2コ)
 - カラーメタル (2コ)
- 袋詰2から—
- M3×15ビス (2コ)
 - 黄色ワッシャ (2.6φ) (2コ)
 - M3 SPワッシャ (2コ)
 - M3ナット・薄口 (2コ)



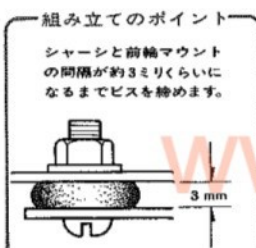
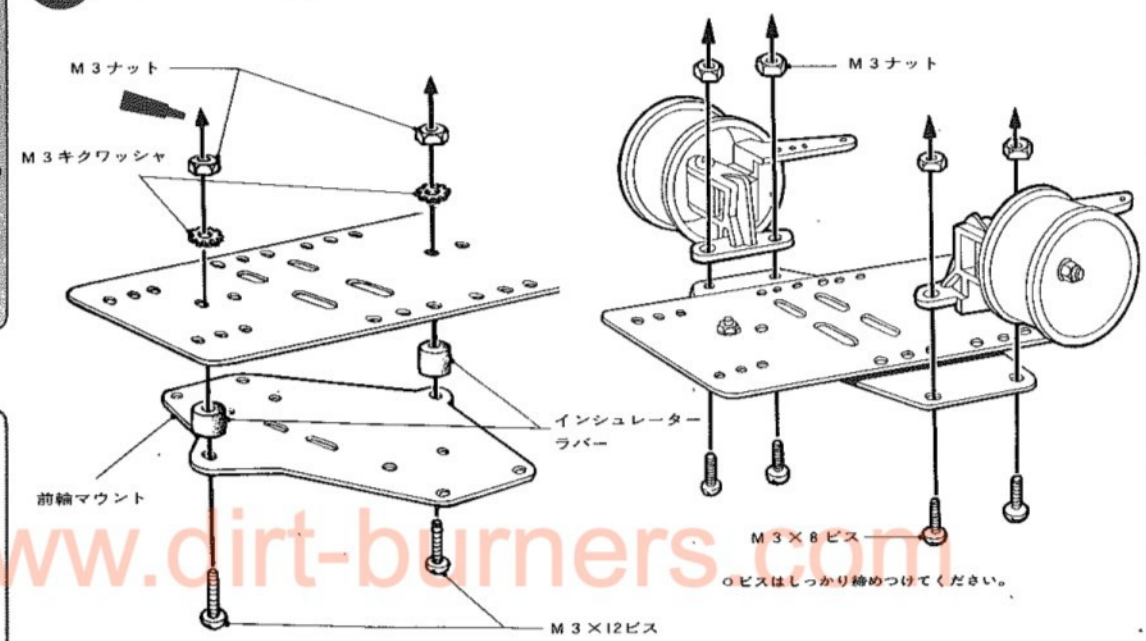
- 《使用する小部品原寸図》
 プリスターバック金具小袋から
- ローレットメタル (2コ)
 - カラーメタル (2コ)
- 袋詰2から—
- M3×26ビス (2コ)
 - 黄色ワッシャ (4コ) (2.6φ)
 - M3ナイロンナット (2コ)

8 フロントホイールの取り付け

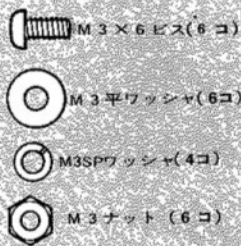


- 《使用する小部品原寸図》
 プリスターバック金具小袋から
- インシュレーターラバー (2コ)
- 袋詰2から—
- M3×12ビス (2コ)
 - M3キクワッシャ (2コ)
 - M3×8ビス (4コ)
 - M3ナット (6コ)

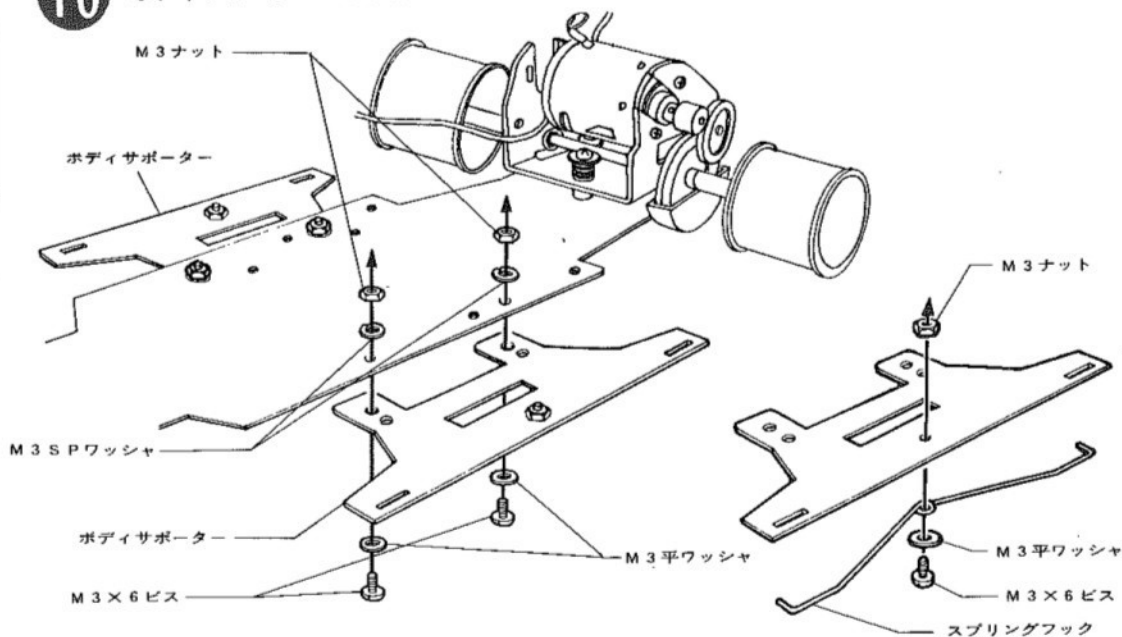
9 シャーシへの取り付け



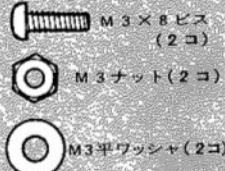
〈使用する小部品原寸図〉
袋詰3から



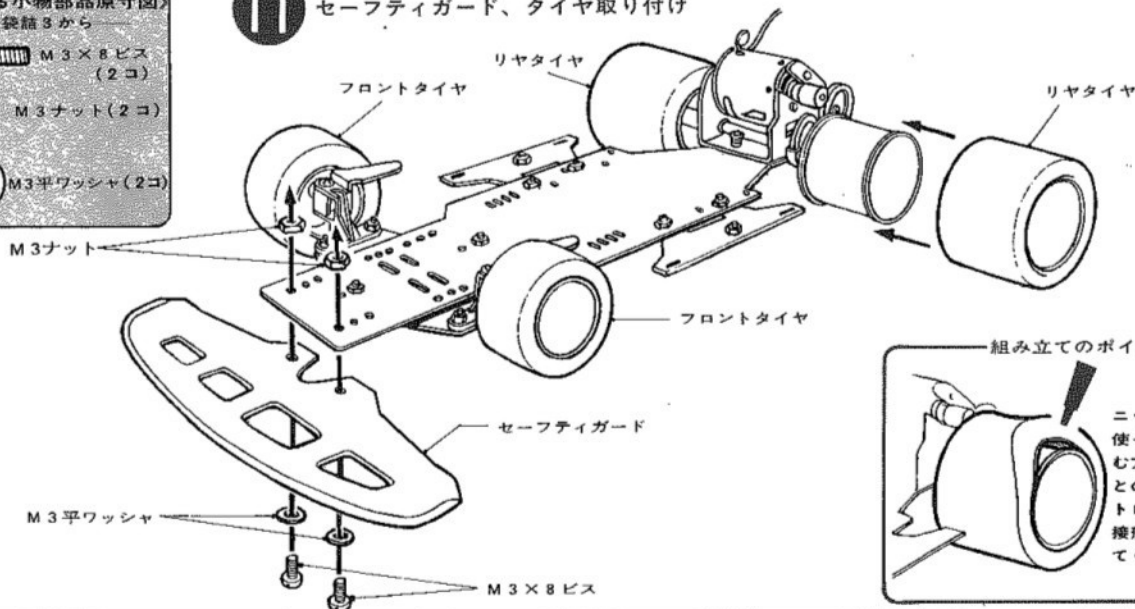
10 ボディサポーターの取り付け



〈使用する小部品原寸図〉
袋詰3から



11 セーフティガード、タイヤ取り付け



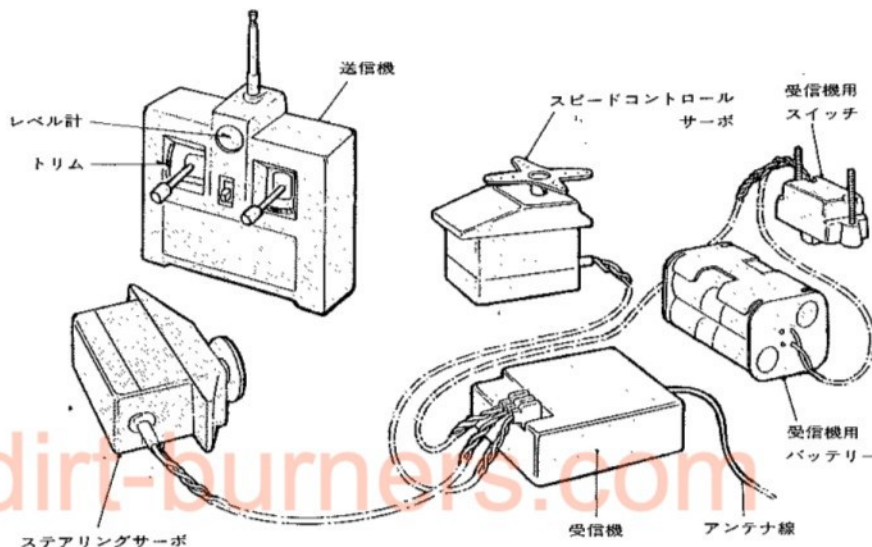
■ラジオコントロールシステムの搭載

★ラジオコントロール装置と各バッテリー(受信機用及び動力用)は別にお買い求めください。

- 各送受信機についている取り扱い説明書を必ず読んでから取り付け始めてください。
- 送受信機のバッテリーには必ず新しい電池を使用してください。電圧が低下すると正常な動作をしなくなります。(片方のサーボを動かすと片方のサーボがガチャガチャと奇妙な動きを始めます。)普通、送信機の電池を1回交換するのに対して受信機側の電池は3回交換を目安としますので送信機のレベル計の針に注意してください。

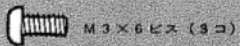
〈ニュートラルの調整〉

- 各サーボを取り付ける際は、サーボホーンがニュートラル(中立)の位置に止まっているかを確認して取り付け作業をしてください。
- ★送信機のスイッチを入れてから受信機のスイッチを入れます。各スイッチを動かさずにサーボの動きが止まったところがニュートラルです。(トリムの位置は中央にしておきます。)
- スイッチを入れるときは、送信機を先に、次に受信機を入れます。スイッチを切るときは受信機を先に次に送信機の順です。この手順はまちがえないでください。(スイッチの切り忘れに注意してください。)

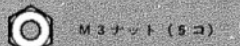


〈使用する小部品原寸図〉

— 図4から —



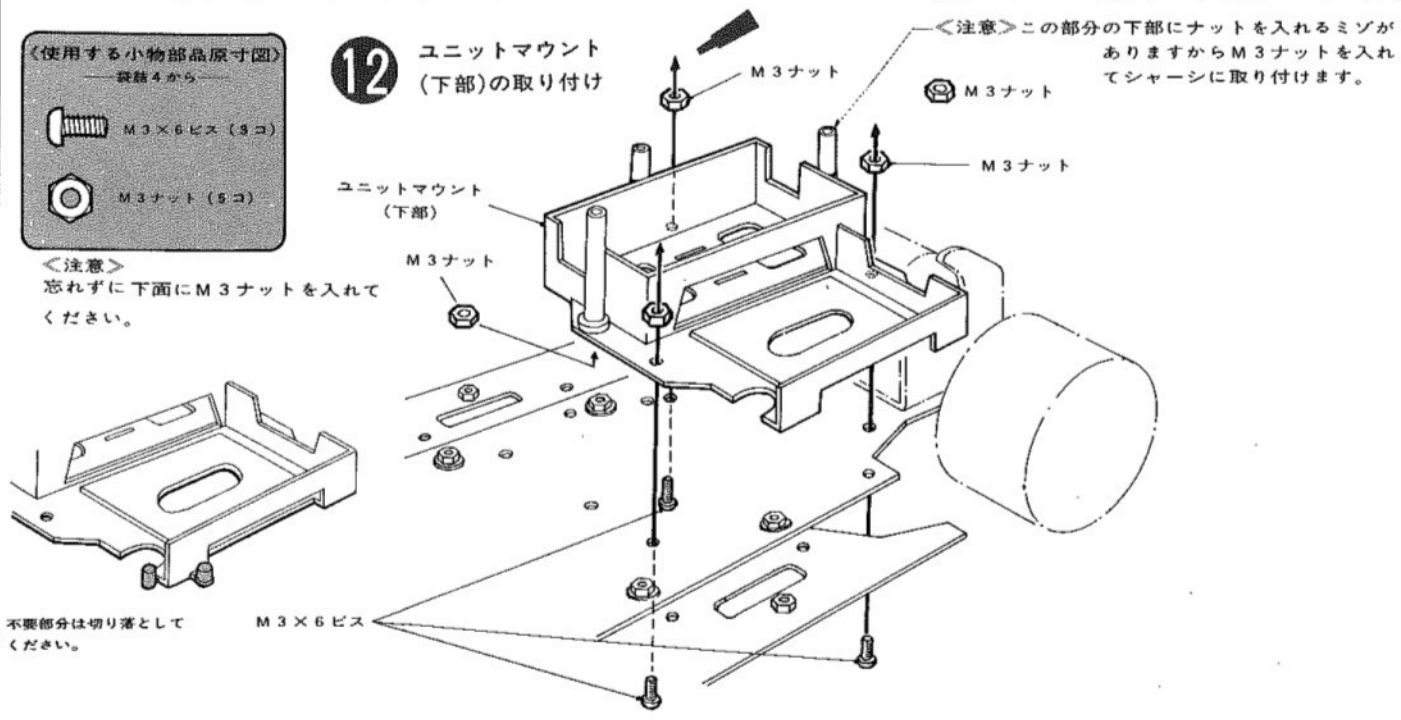
M3 x 6ビス (3コ)



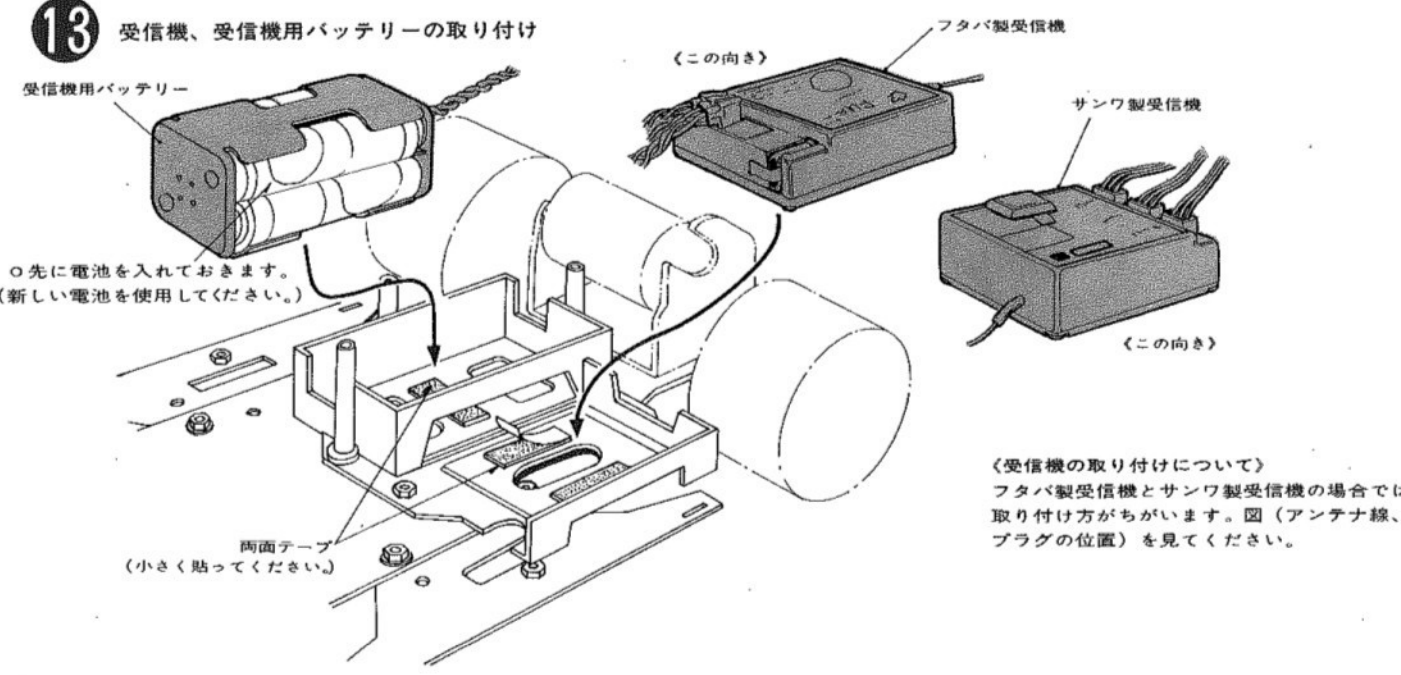
M3ナット (5コ)

〈注意〉
忘れずに下面にM3ナットを入れて
ください。

12 ユニットマウント
(下部)の取り付け

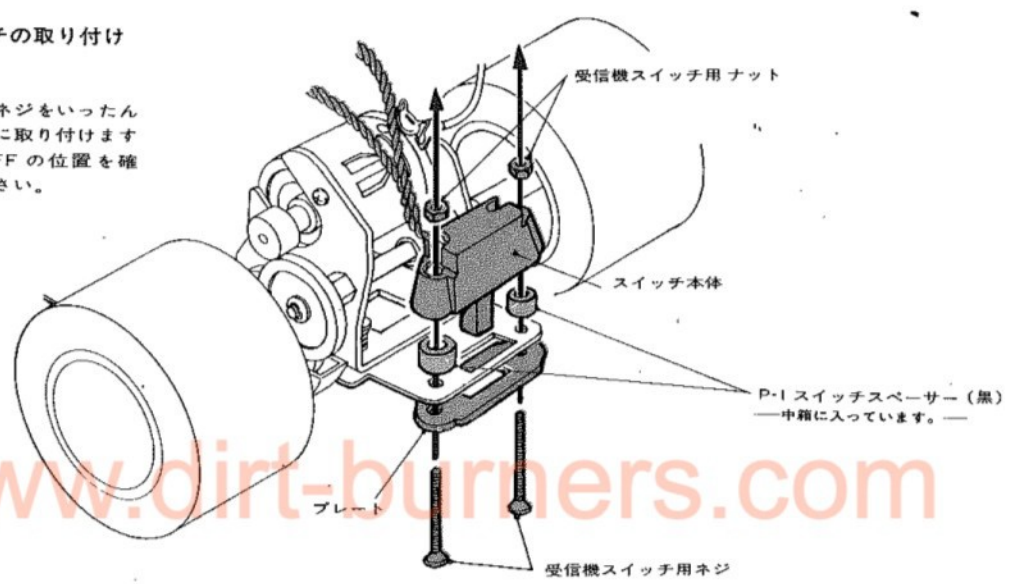


13 受信機、受信機用バッテリーの取り付け



14 受信機用スイッチの取り付け

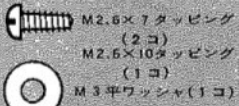
〈注意〉
受信機スイッチのネジをいったん
はずしてシャーシに取り付けます
が、その時 ON, OFF の位置を確
認しておいてください。



COPYRIGHT

〈使用する小部品原寸図〉

袋詰4から



15 スピードコントローラー及びサーボの取り付け

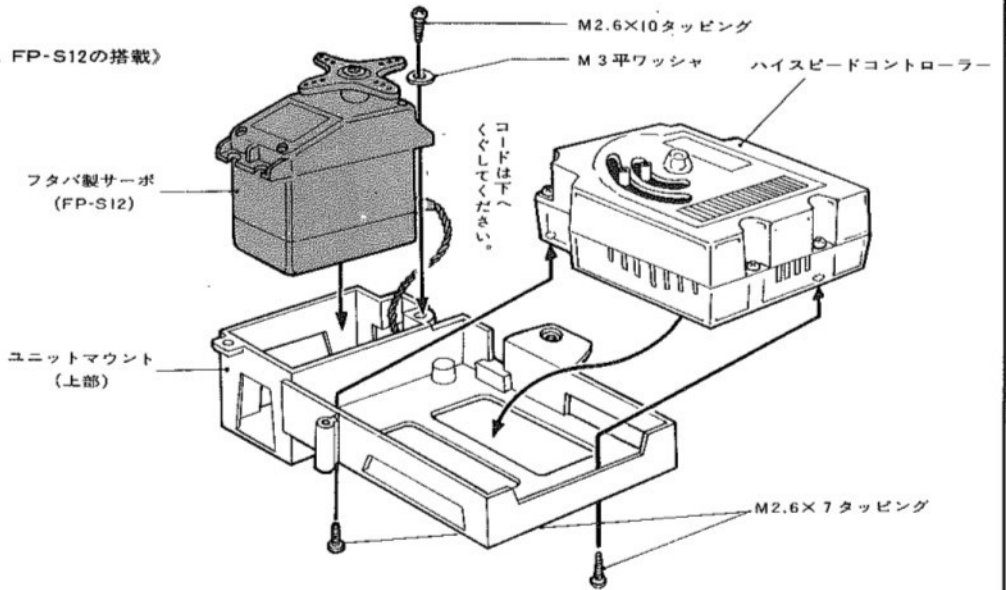
下記のサーボ以外でも、多少手を加えれば固定することができます。アダプターを削って加工して下さい。加工の際はケガに注意しましょう。

〈FUTABA FP-S12の搭載〉

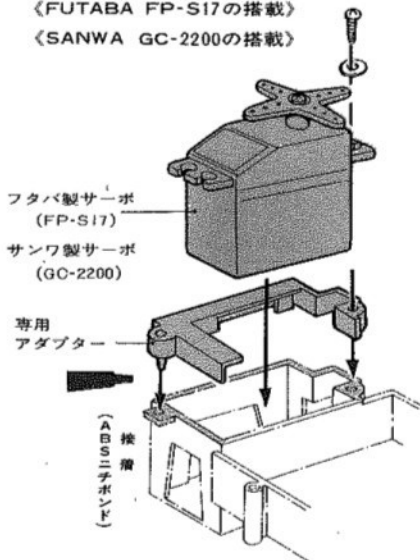
◎サーボは各社で大きさがちがいますから、それぞれの搭載例をよくみてください。なお、例以外のサーボも多少手を加えることにより取付けられます。

○サーボから出ているコードは右図のように下へくぐらせてください。尚、各サーボによりコードが受信機につながっている場合があります。その場合は一度はずしますが元の位置を忘れないようにしてください。

◎ここで使用するサーボはFUTABAの場合受信機のCH2、SANWAの場合受信機のFUNC2の位置に接続されているものを使います。

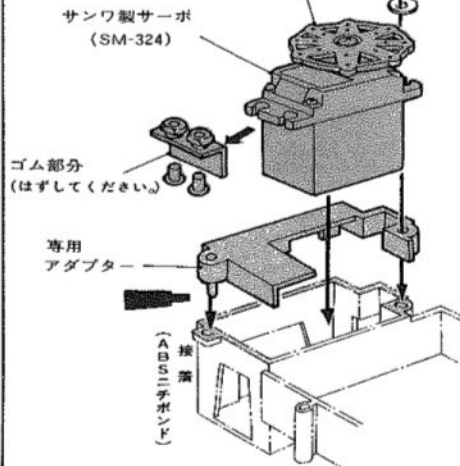


〈FUTABA FP-S17の搭載〉
〈SANWA GC-2200の搭載〉



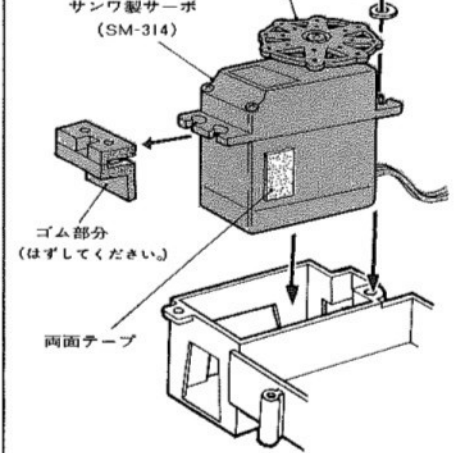
〈SANWA SM-324の搭載〉

サーボホーンはネジ止めの際本体からいったんはずしてください。



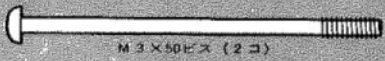
〈SANWA SM-314の搭載〉

サーボホーンはネジ止めの際本体からいったんはずしてください。



〈使用する小部品原寸図〉

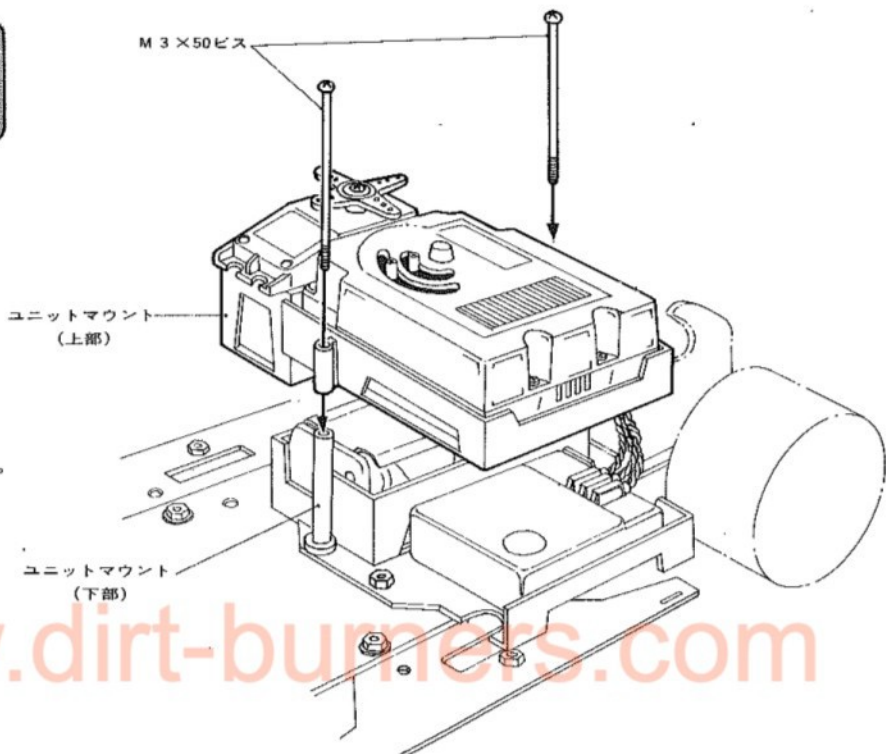
袋詰4から



16 ユニットマウントの接合

ユニットマウント上下をビスで接合します。

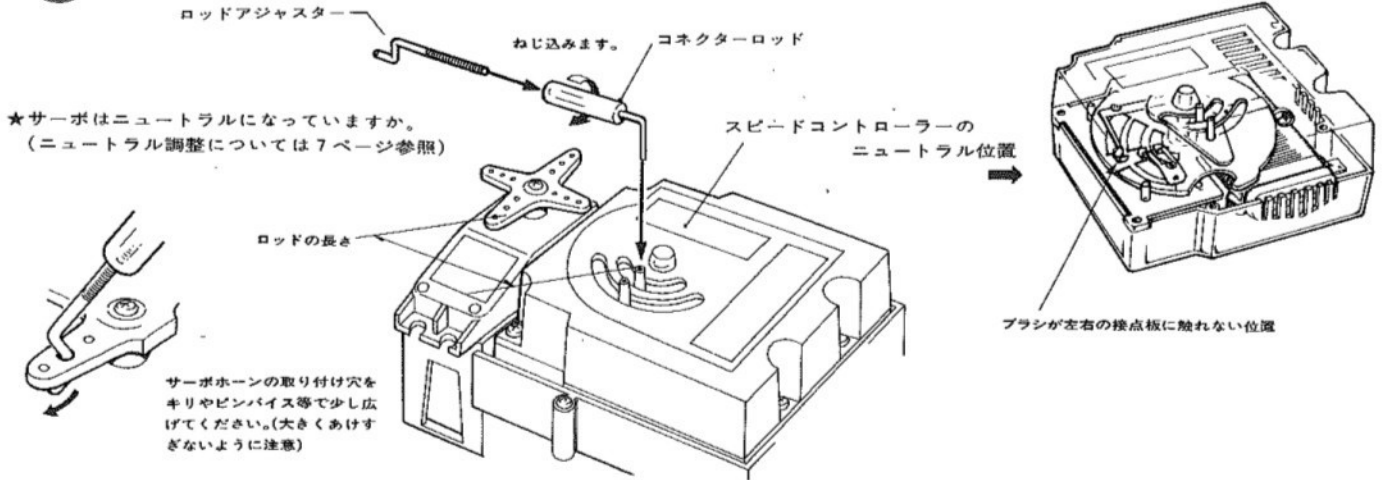
〈注意〉 受信機用バッテリーの電池交換にはM3x50ビスをはずして行ないます。



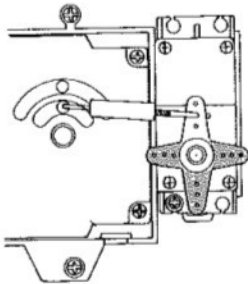
17

コントローラーロッドの取り付け

○サーボ及びスピードコントローラーをニュートラル位置
にしておいてロッドの長さを調節してください。

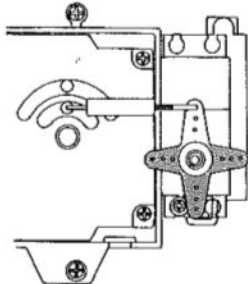


《FUTABA FP-S12の搭載》

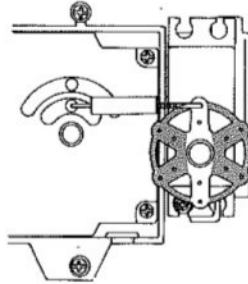


※サーボホーンは必要以外を切りとってください。

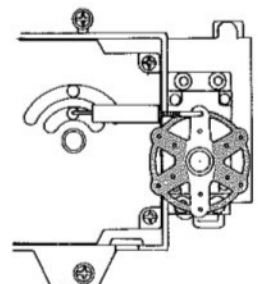
《FUTABA FP-S17の搭載》



《SANWA SM-324の搭載》



《SANWA SM-314の搭載》



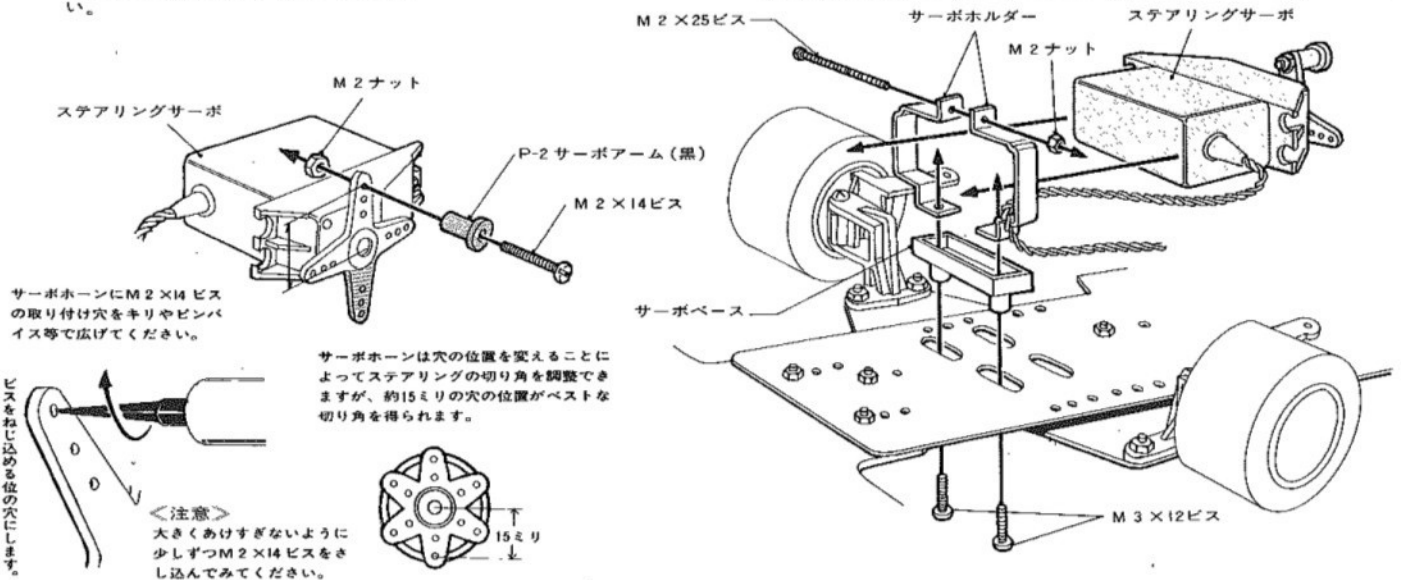
18

ステアリングサーボの取り付け

○ステアリングサーボは各社で大きさがちがいますから下記の搭載例をみて取り付けの方法をまちがえないでください。

《使用する小部品原寸図》
袋詰 5 から

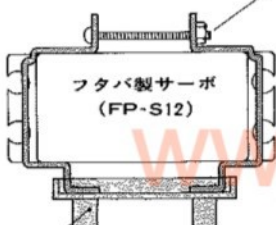
M 2 ナット (2 コ)	M 2 × 25 ビス (1 コ)
M 2 × 14 ビス (1 コ)	M 3 × 12 ビス (2 コ)



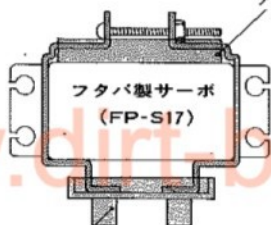
《各社サーボ搭載例》

サーボホルダーをしっかりと締め付けてください。

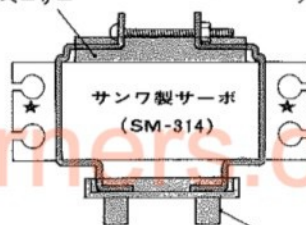
★印部についているゴム部分を外して使用します。



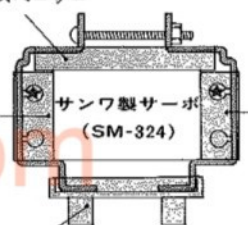
サーボベースFT-1



サーボベースFT-2

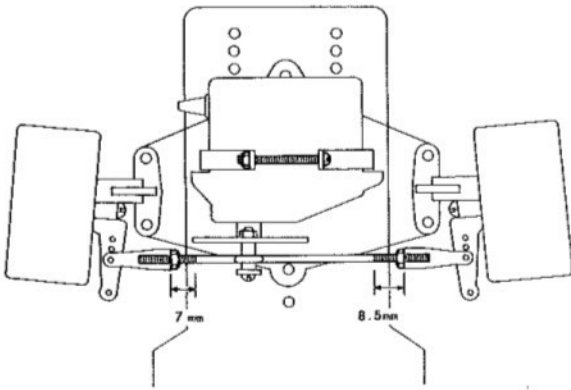


サーボベースSNW

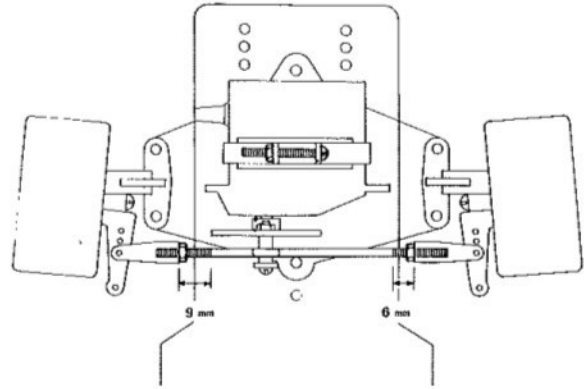


サイドスベーター

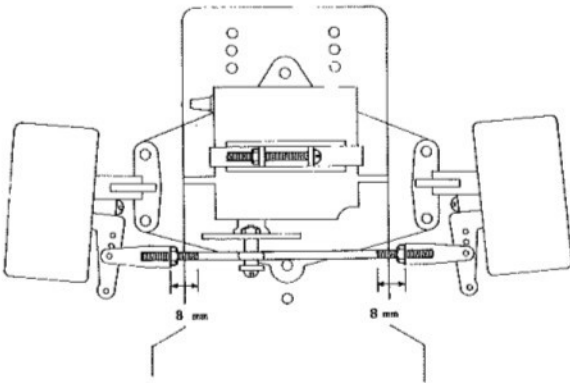
● FUTABA 製サーボ (FP-S12)



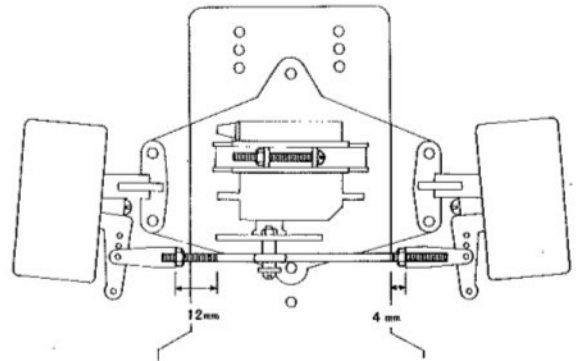
● FUTABA 製サーボ (FP-S17)



● SANWA 製サーボ (SM-314)



● SANWA 製サーボ (SM-324)



◎その他のサーボもサーボベース、サイドスペーサーの組合せを変えることにより取付けられます。

〈使用する小部品原寸図〉

袋詰りから

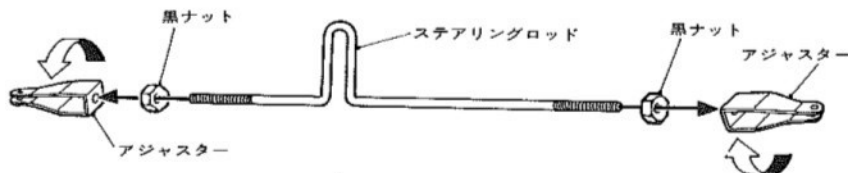
黒ナット (2コ)

割ピン (2コ)

プリスターバック金具小袋から

アジャスター (2コ)

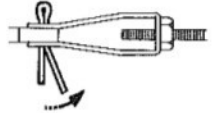
19 ステアリングロッドの取り付け



- ①ステアリングロッドの左右にアジャスターを取り付けます。
- ②使用するサーボによりアジャスターの調整が異なります。上図の各社搭載例をみて、アジャスターを寸法の通りねじ込んでください。前輪が前つぼまりになります。この状態がこのキットにおける直進性をベストにします。(トーイン角約5°)

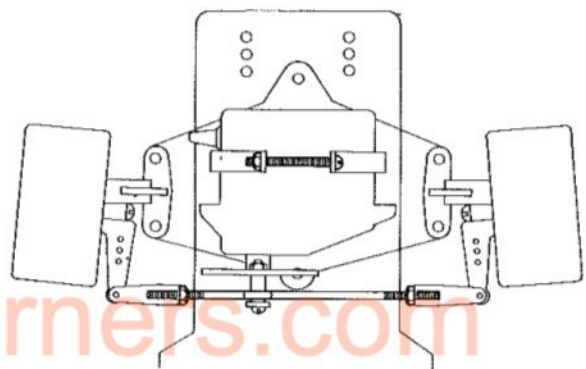
組み立てのポイント

ステアリングロッドの調整が済んだら割ピンの先を少し曲げておいてください。

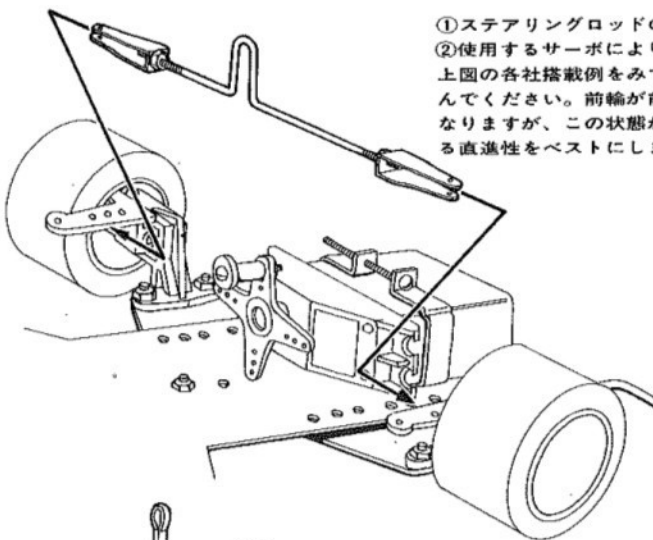


組み立てのポイント

下図のようにステアリングロッドをセットすると直線コース向きになります。かじ切りの感度は鈍くなりますが直進性はさらに良くなります。



注) サーボの大きさによりセットできない場合がありますので御了承ください。

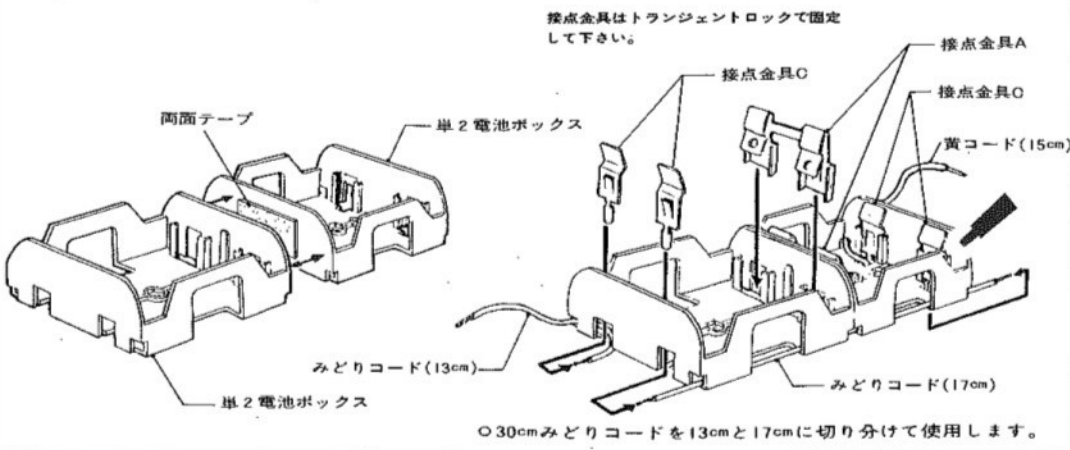


割ピン

ステアリングロッドの長さが調整できたら両ロスバナーでしっかり締め付けてください。

トランジェントロックで固定します。

20 電池ボックスの組み立て



組み立てのポイント

《コードの接続》
接点金具の端子部に
通し、ペンチなどで
強くつぶして接続し
ます。

《注意》
シャーシ及びボデ
ィサポーターに接続
してショートしたり
しないよう端子部を
曲げた後にビニール
テープを表面から貼
って完全に絶縁させ
るようしてください。

約5mm

○30cmみどりコードを13cmと17cmに切り分けて使用します。

《使用する小物部品原寸図》
袋詰6から

- M2×14ビス(2コ)
- M2ナット(2コ)

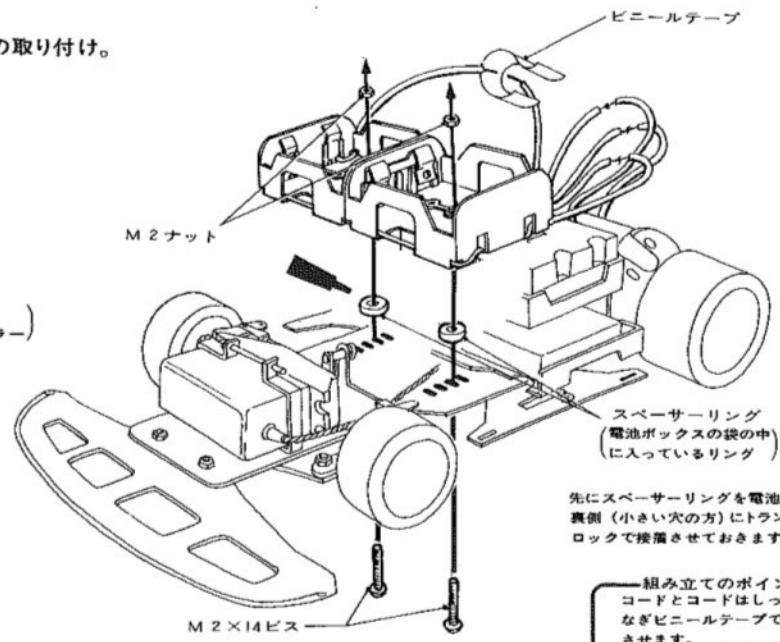
21 電池ボックスの取り付け。

単2乾電池の場合のコードの接続

(モーター) 赤……………赤 (スピード)
青……………青 (コントローラー)

(電池ボックス) みどり……………みどり (スピード)
黄……………黄 (コントローラー)

○電池ボックス⊕、⊖の記号に合わせて乾電池をセットします。



組み立てのポイント
コードとコードはしっかり
なごビニールテープで絶縁
させます。

《使用する小物部品原寸図》
袋詰6から

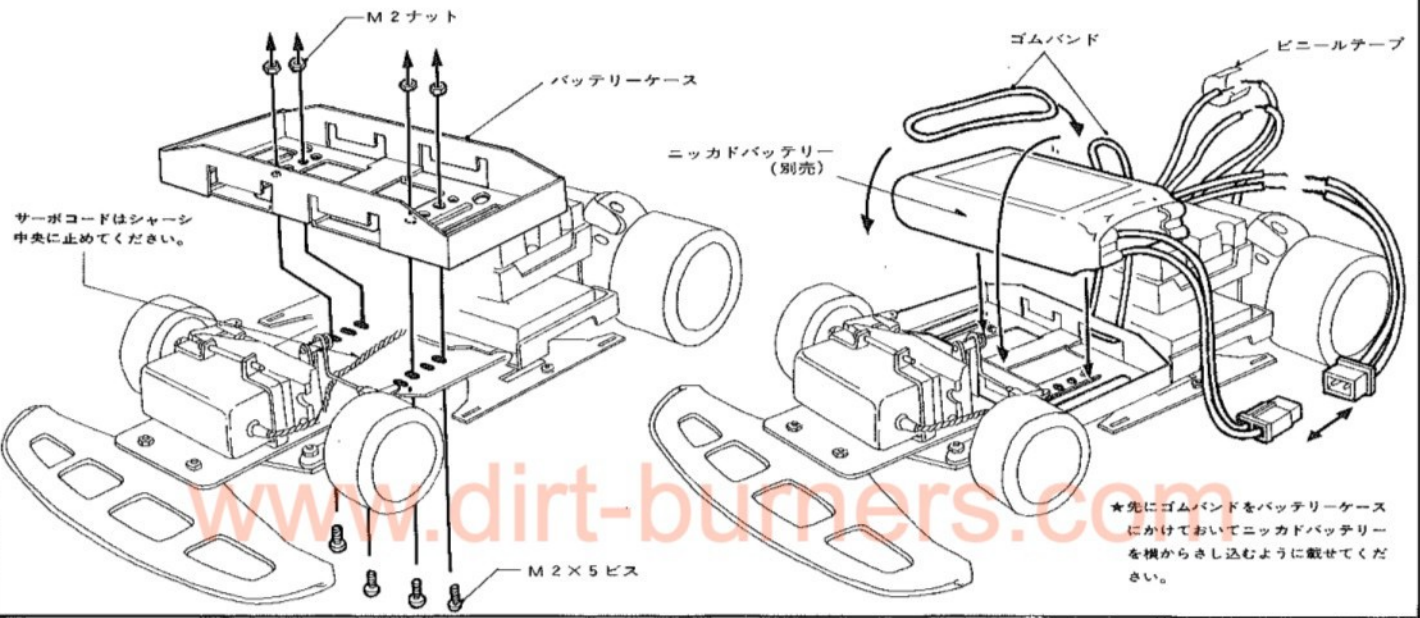
- M2×5ビス(4コ)
- M2ナット(4コ)

22 ニッカドバッテリーの搭載

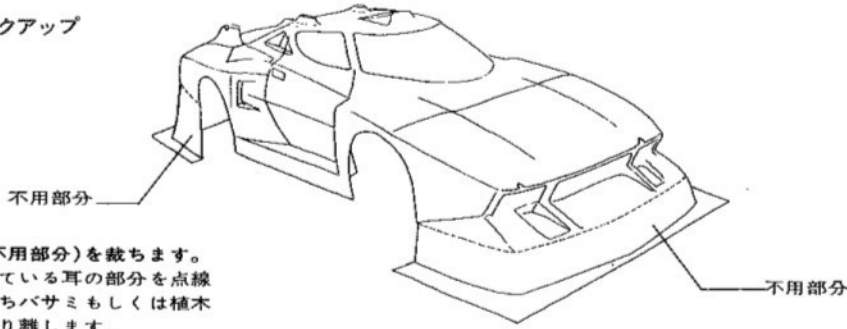
パック型ニッカドバッテリーの場合の接続

(モーター) 赤……………赤 (スピード)
青……………青 (コントローラー)

(バッテリー) 赤……………みどり (スピード)
黒……………黄 (コントローラー)



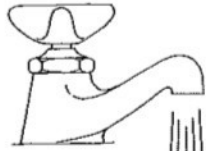
23 ボディ・メイクアップ



ボディは真空成型製品のため製品の細部の形状には多少のバラツキが発生することがありますが走行性能には全く支障がありませんからご了承ください。

① ★ボディの耳(不用部分)を載ちます。ボディについている耳の部分を実線の位置から載ちバサミもしくは植木バサミ等で切り離します。

各部品を洗います。ボディ、ルーフスポイラー(金属部品)、リヤウイング(ポリカーボ製)



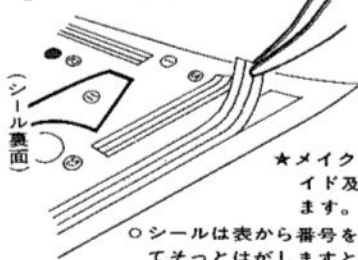
○後でシールを貼るときに手がよごれているとシールもよごれてしまいます。良く洗ってから始めましょう。

最初にポリカーボ製のボディは内側を中性洗剤で洗ってください。(手油などが付いているとシールや塗料の粘着力が弱くなる場合があります)

良く洗ったボディは水気を取り除いて良く乾かしてください。(水が残っているとシールが着きません。)

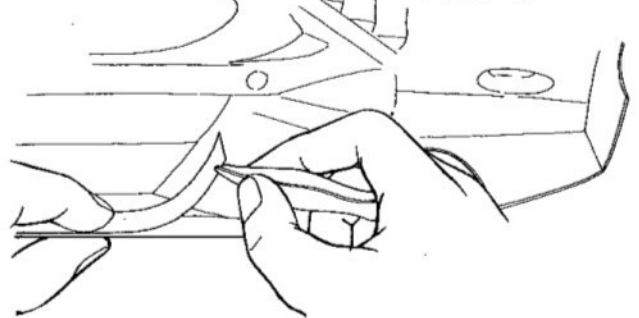


② メイクアップシールを貼ります。



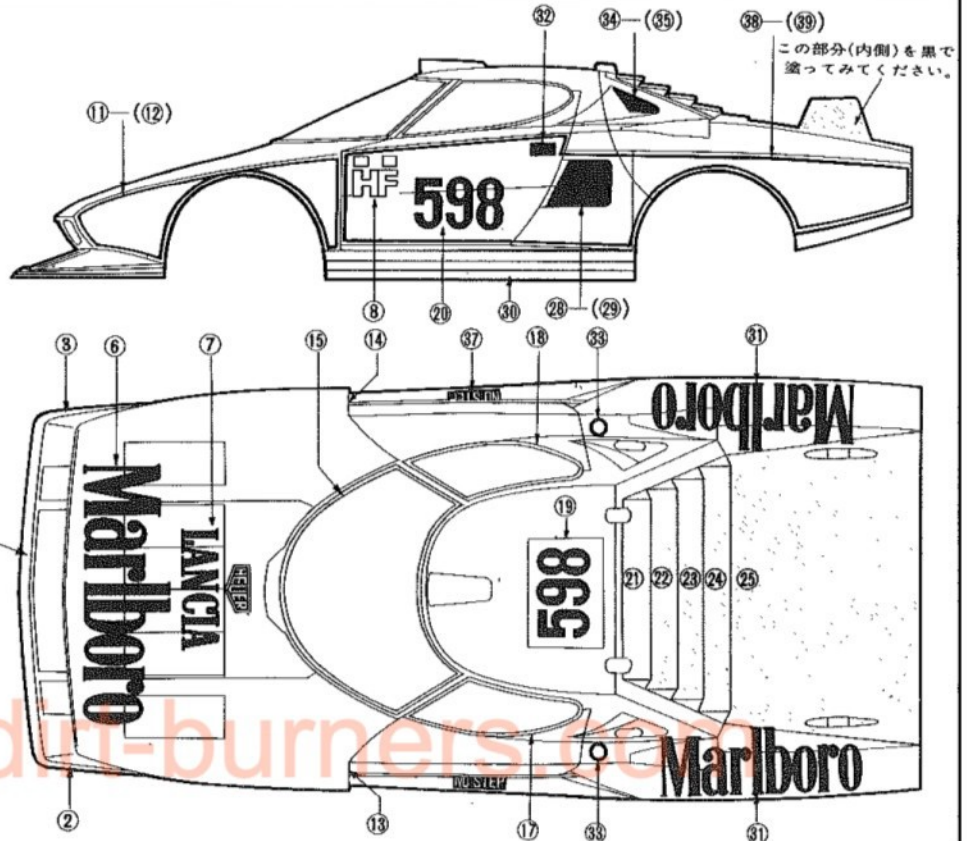
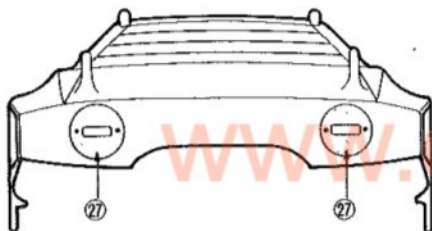
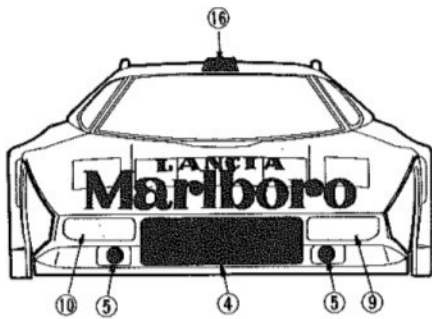
★メイクアップシールを下記のマーキングガイド及び箱絵等を参考にボディ内側に貼ります。

- シールは表から番号を確認したら裏からピンセットを使ってそとはがしますと、はがれますので、指のあとができるだけつかないように注意しながらボディ内側にうつつてください。
- できるだけ1回で貼る位置をさめるようにしていねいに貼ってください。
- シールのはしはしっかりと押えつけてできるだけボディとの間に気泡ができないようにします。(ツメや先のとがったものでは押えつけないでください。)

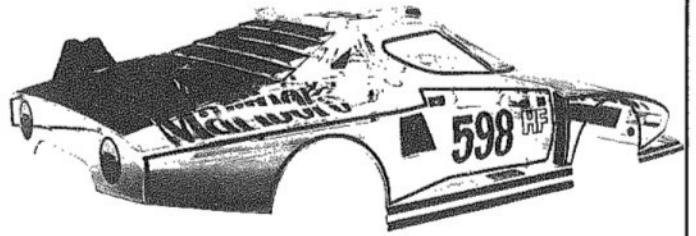
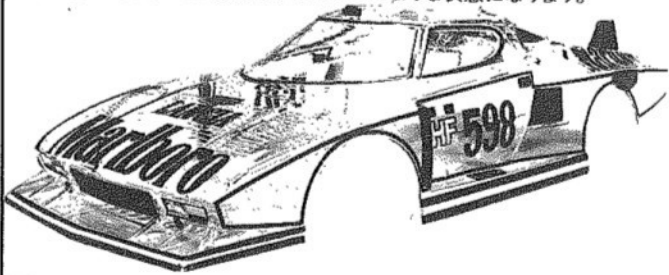


マーキングガイド

- ◎シールの位置は図の通りですが箱絵や箱写真も参考にしてください。
- ◎番号順に順を追って貼ってください。

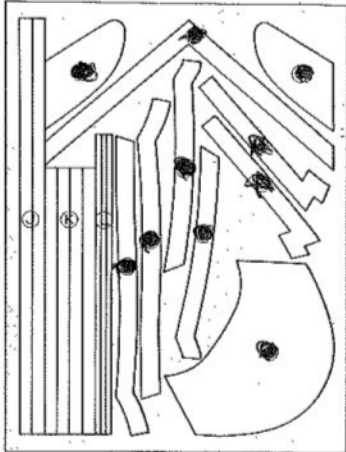


○メイクアップシールを貼り終わったらこのような状態になります。



マスキングガイド

③ 塗装しない部分をマスキングします。(その1)



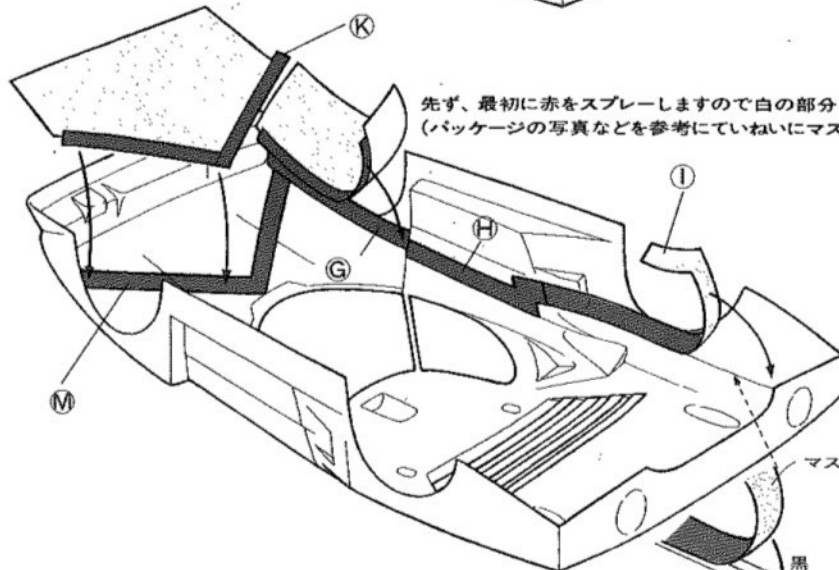
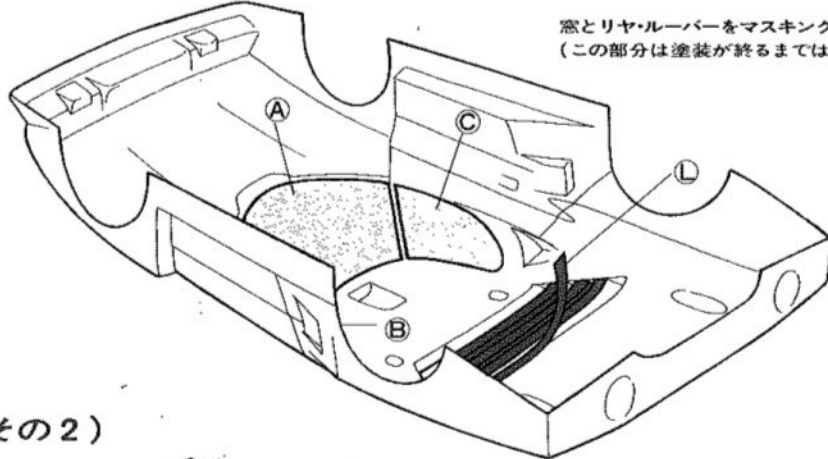
(その2)

(その2)

パッケージの写真を参考に白の部分をマスキングしますので最初に赤と白の(⑩~①)をはります。次に③、⑫のマスキングテープを適当な長さに切って新聞紙や広告等の紙をくわえてまわりをおおってください。

★モデルメイクアップスプレーは缶に印刷された注意をよく読み、正しい使いかたをしてください。火の気の附近または火気を使用している家屋内では絶対に塗装はしないでください。

窓とリヤルバーをマスキングします。
(この部分は塗装が終るまではがしません。)



まず、最初に赤をスプレーしますので白の部分をマスクします。
(パッケージの写真などを参考にしていねいにマスキングしてください。)

マスキングテープ

メイクアップシール

★この範囲でマスキングテープをしっかりと押えつけてはってください。

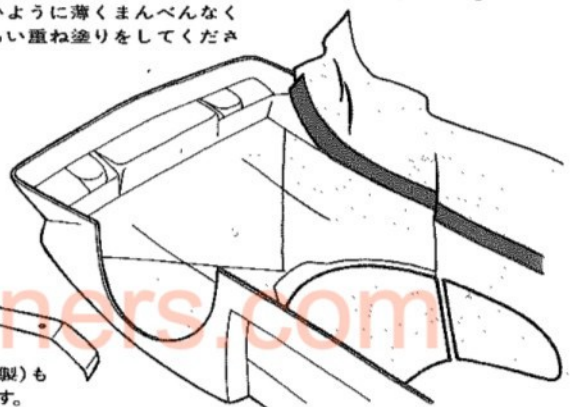
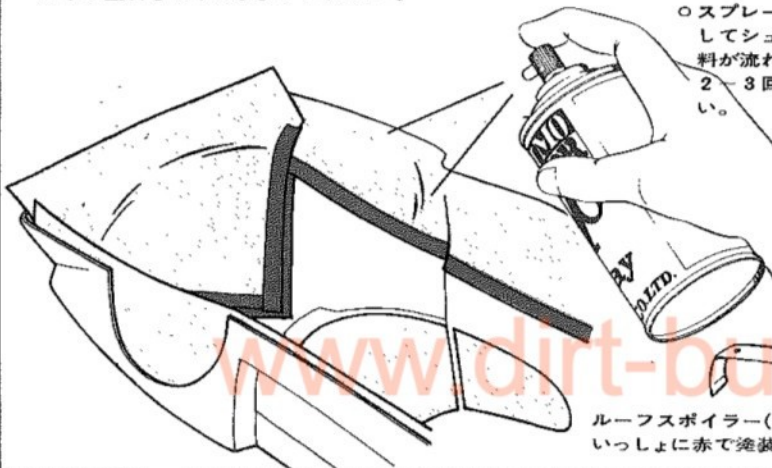
④ モデルメイクアップスプレー〈赤〉を吹き付けます。

○風のない日陰で新聞紙などを用意してほこりの出ないようにしてから塗装します。スプレー缶は上下によくふって缶の中の塗料をよくかきまぜてください。

○吹きつけるときは、塗装するボディ(ポリカーボネート製のランチアのボディ)から約20センチくらい放してください。

○スプレー缶を同じ方向にすばやく動かしてシュッシュッと吹き付けます。塗料が流れないように薄くまんべんなく2-3回くらい重ね塗りをしてください。

◎乾いたらマスキング(その2)で貼った部分のみをゆっくりとはがします。(その1)で貼った窓とリヤルバーのところははがさないでください。



ルーフスポイラー(金属製)もいっしょに赤で塗装します。

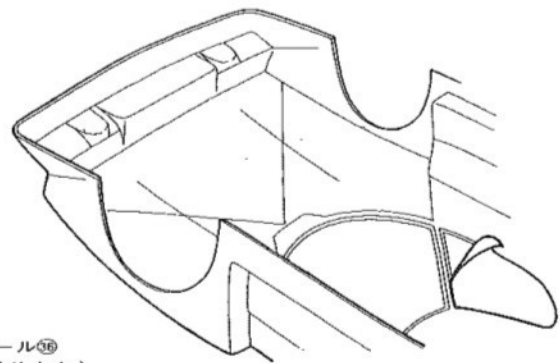
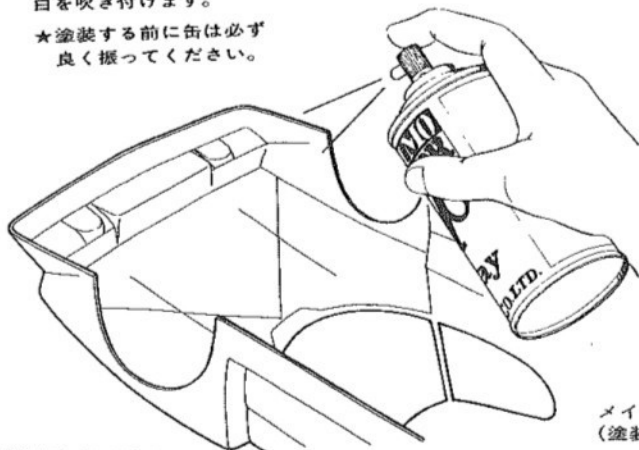
⑤ モデルメイクアップスプレー〈白〉を吹き付けます。

最初に塗装した〈赤〉が完全に乾いたら白を吹き付けます。

★塗装する前に缶は必ず良く振ってください。

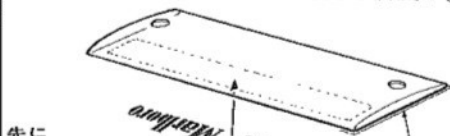
★ボディ外側に吹き付けないように注意してください。

◎塗装が終わったら、ピンセットを使って窓やリヤルーバーに貼ってあったマスキングテープをゆっくりとはがします。



メイクアップシール^⑮
(塗装した面に貼ります。)

〈リヤウイングも白でいっしょに塗装してください。〉



先にメイクアップシール^⑮を貼ります。

塗装面

バリなどが出ているら
カッターナイフ等で、
きれいに削り落として
ください。



塗装面

〈塗装メモ〉



手に持つことができなくて塗装しにくいウイングなどは、左図のようにテープや、マスキングであまったマスキングテープを使って、古雑誌の上や塗料がとばないように広げた新聞紙の上へ固定してください。

24 ボディへの部品取り付け

(使用する小部品原寸図)
プリスターパック金具小袋から



アンテナ
スタッド
(1コ)

—袋裏7から—



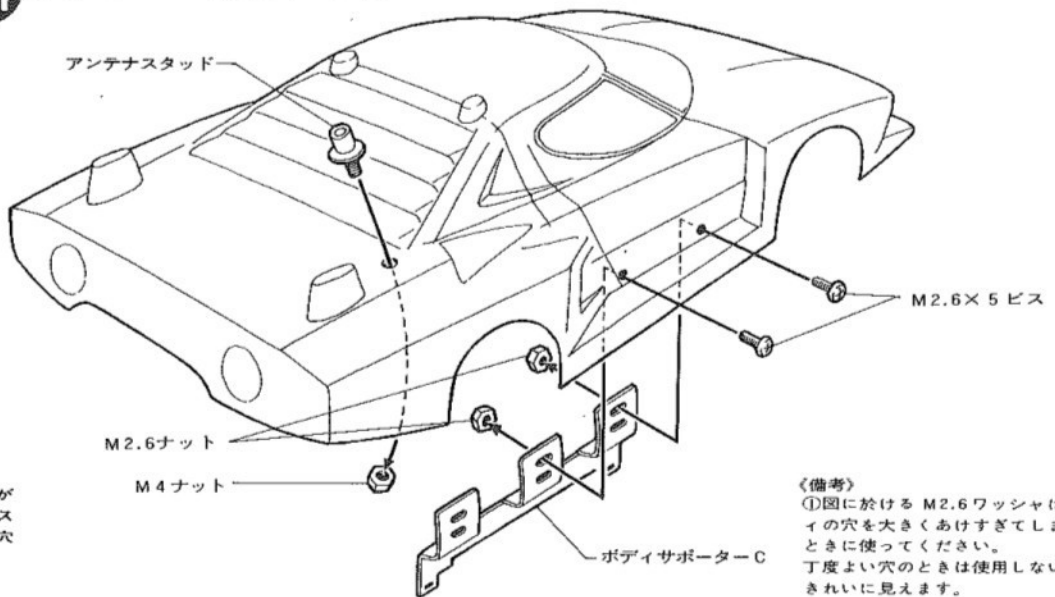
M4ナット (1コ)



M2.6×5ビス
(4コ)



M2.6ナット (4コ)

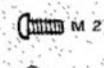


★各ビス止め用の穴はボディに目印がありますからキリまたはピンバイスなどで各ネジ部の大きさにあった穴を開けてください。

〈備考〉
①図に於けるM2.6ワッシャはボディの穴を大きくあけすぎたときに使ってください。丁度よい穴のときは使用しない方がきれいに見えます。

25 リヤ部分のM2×5ビス取り付け

(使用する小部品原寸図)
—袋裏7から—



M2×5ビス (4コ)



M2ナット (4コ)

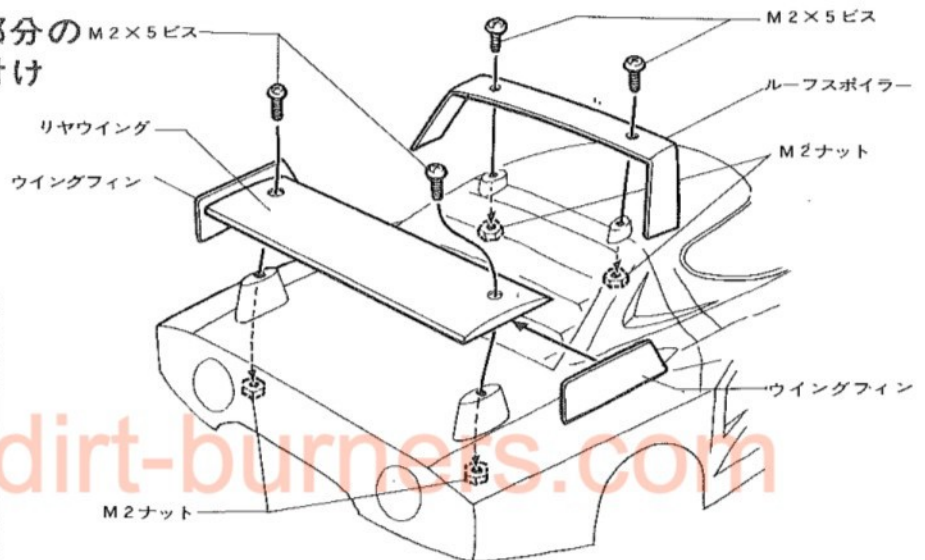
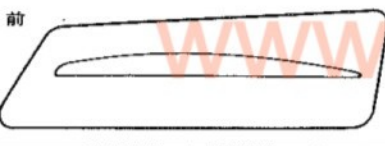
★各ビス止め用の穴をキリまたはピンバイスなどで各ネジ部の大きさに合わせて穴を開けてください。

(ウイング接着位置原寸図)

◎ウイングの接着にはポリカーボネート樹脂専用接着剤、カーボスティックで接着します。

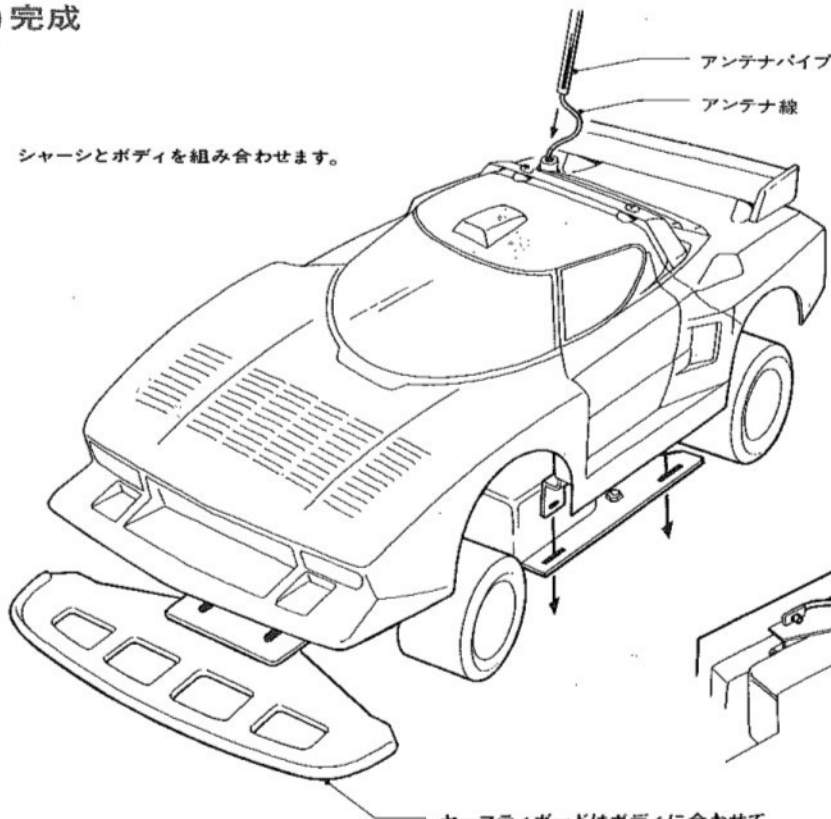
前

後



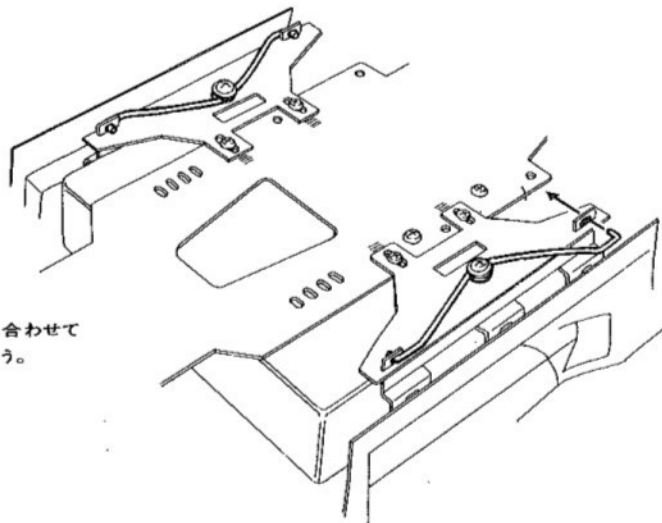
M2ナット

シャーシとボディを組み合せてください。



セーフティガードはボディに合わせて
適当な位置に調整しましょう。

《スプリングフックのかけ方》



ニチモの12VバッテリーはRS-380Sモーター及びコントローラーの安全性を考慮し、電流を600mAに押えています。12V大電流(600mA以上)バッテリーの場合、上記の安全性に問題がありますので、このキットでは使用しないでください。

＜走行直前の最終総合チェック＞

- ビス及びナットのゆるみや締め忘れの箇所はありませんか。走行中にはずれてしまうとボディ、シャーシ、メカなどを損傷させてしまうことがあります。増し締めもしておきましょう。
- 配線は正しく行なわれていますか。順をおって確認してみると良いでしょう。
- 接点部以外のコードや金属部分の接触はありませんか。もし接触してしまっている部分はすみやかに離しておき、ビニールテープなどによる絶縁をほどこしておく必要があります。各電装関係部にいちじるしい負担やとり返しのつかないダメージを与えてしまいますので念入りに調べてください。
- モーター及びギアの取り付けは完全ですか。定位置(適当な遊びをもった)にモーターがマウントされていませんとギアの歯部の損傷やモーターに必要な以上の負担をかけることになります。調整してください。

- ここで駆動テストをしてみましょう。
- まず前後輪とも浮かせておく必要があります。キット内の小箱を利用するとよいでしょう。(図をごらんください。)
- 送・受信機のスイッチをONにしてください。
- ステアリング用のスティックを左右に倒してください。フロントタイヤの作動範囲は適正(左右同量)ですか。
- 後輪を回転させてみましょう。動力用スティックを前後にゆくり動かしてください。
- 駆動部に余計な力はかかっていませんか。ギアやタイヤの回転、異常などで確認することができます。
- 注) ニックドバッテリー使用において、大電流を一度に流す能力を持った高性能電池ですのでモーターやスピードコントローラーに負担をかけないように注意してください。(例えばスイッチONで回転しているタイヤを無理に押えたり、車が障害物に当たり進むことができないときにハイパワーをかけるようなこと。)

- さて、これでひととおりのチェックは終わりました。今度は走行前にギアを馴染ませておく必要があります。はやる気持ちを抑えて……もう少しです。
- まずスローで1分間くらいトロトロと……。そして中速で30秒、最後にフルパワーで30秒くらい回し続けてください。
- これでOKです。



完璧にチューニングされた、あなただけのマシンの完成です。あなたの意のままに動いてくれるはず。トレーニングを繰り返して、点検を怠らないあなたが「サーキットの狼」になり得るのです。

＜ラジオコントロールカー操作の手引き＞

- 初めてラジオコントロールカーを手にする方は経験のある人に指導していただくとう良いでしょう。きっと意義のあるアドバイスであなを上達させてくれるでしょう。安全にプレイする為にもぜひお願いしてみようにしてください。路上での走行は非常に危険です。絶対にやめましょう。空地や広場、またはラジオコントロール用の特設サーキットなどで技術の向上に専念してください。

- ラジオコントロールカーは電装品です。水気や泥をさらいますので付近にそのような場所があるところではプレイをひかえましょう。もし、水や泥が付着してしまつたら平目に取り除き、グリスアップは忘れずに行ってください。



- 長期にわたってプレイしないときは動力用及び送受信機のバッテリーは、取りはずしておきましょう。
- 走行前には始業点検(フロントのステアリングサーボやコントローラーサーボ、スピードコントローラーの確実な作動や回転部のチェックなど)を忘れずに行ってください。安全なプレイをするためにだけでなくマシンの性能を持続させるためにもぜひ習慣づけてください。

- 他の人がプレイしているときや、グループで楽しむ場合には混信による事故を防ぐ為に必ず周波数リボンの確認をして操縦してください。簡単な事ですが、案外忘れがちです。ちょっとした注意で未然に防ぐことができます。
- 高圧線の付近やその他の電波を拾いやすい場所ではノー・コントロール(操縦不能)をまねがちです。不明電波による混信が起きた場合にはマシンはすぐに停止させましょう。



- 人の集まりやすい場所やたくさんの人が見ている場所でのプレイには充分気を配ってください。(小さな子供のいるときには特に注意しましょう。)

+

●ドライバーの取り付け

補足説明書

ドライバーの組み立てにはアドハチックを使います。



※ドライバーは自由に塗装してください。



●バッテリーのゴムバンドにドライバーの両端をはさんでください。

品質の保持及び向上のため、説明不足及び組み立て変更は補足説明書により万全を期しますので、ご安心の上製作ください。

日本模型株式会社

+